

第2章 本市の現状と将来見通し

1 人口動向と将来予測

(1) 人口の推移と推計

本市の令和2(2020)年の総人口は50,681人であり、平成27(2015)年から2,934人(-5.5%)減少しています。ここ40年間の最大であった昭和60(1985)年の64,089人からは約13,000人(-21%)減少しており、減少傾向は、年々拡大する傾向にあります。

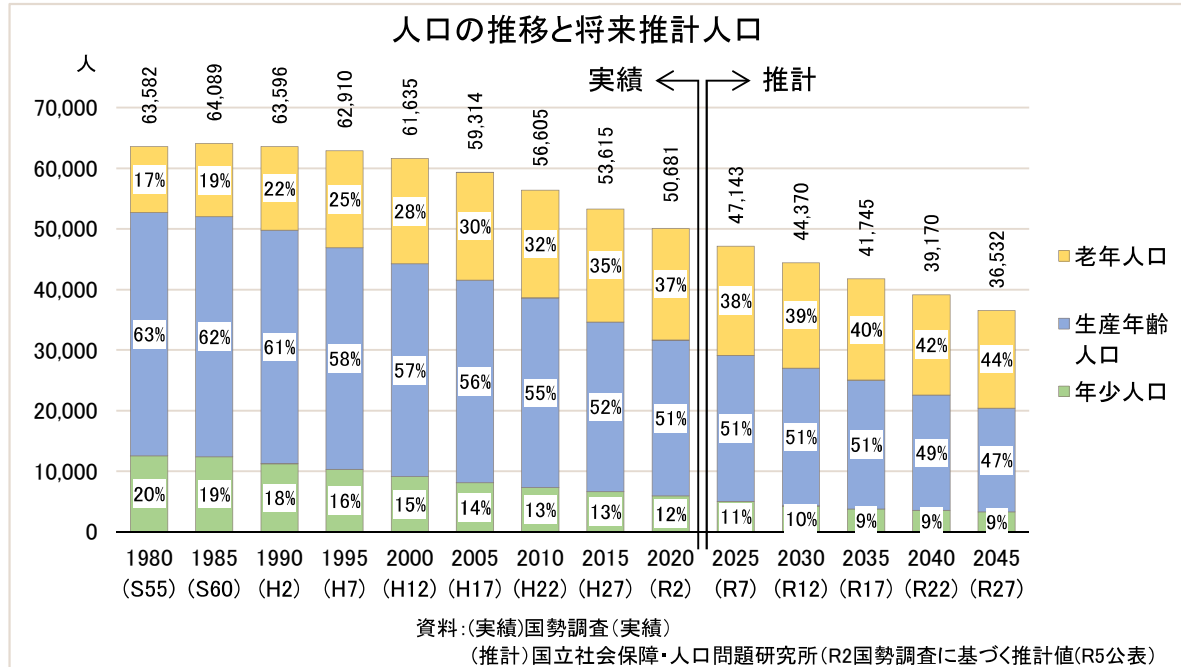
総世帯数は、平成17(2005)年の21,968世帯までは増加の傾向で推移していましたが、平成22(2010)年から減少に転じ、令和2(2020)年には21,377世帯まで減少しています。

国立社会保障人口問題研究所(以下「社人研」という。)による令和2(2020)年国勢調査に基づく人口の将来推計をみると、25年後の令和27(2045)年の総人口は36,532人(令和2(2020)年から-27.9%)まで減少することが予測されています。年齢階層別人口では、年少人口、生産年齢人口ともに割合が低下するのに対して、老年人口は令和2(2020)年の37%から44%まで上昇すると予測されています。

人口・世帯数の推移

	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
総人口(人)	63,582	64,089	63,596	62,910	61,635	59,314	56,605	53,615	50,681
5ヶ年増減率(%)	-0.95%	0.8%	-0.8%	-1.1%	-2.0%	-3.8%	-4.6%	-5.3%	-5.5%
総世帯数(世帯)	19,273	19,697	20,355	21,167	21,910	21,968	21,786	21,376	21,377
世帯増減率(%)	2.10%	2.2%	3.3%	4.0%	3.5%	0.3%	-0.8%	-1.9%	0.0%
世帯当たり人口(人/世帯)	3.30	3.25	3.12	2.97	2.81	2.70	2.60	2.51	2.37

資料: 国勢調査

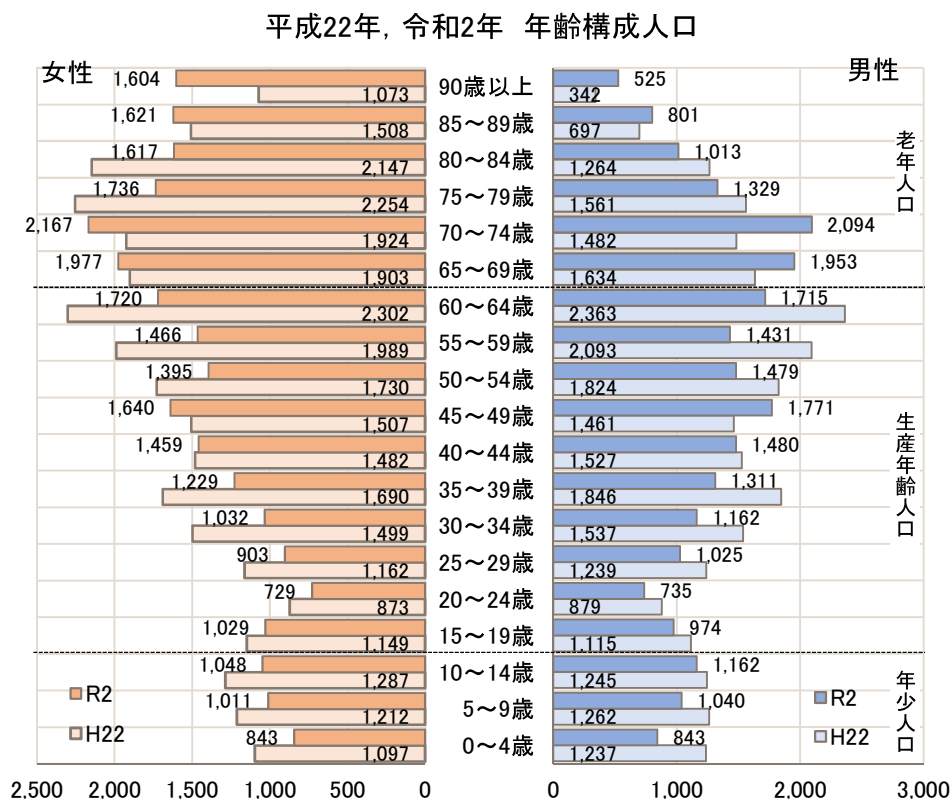
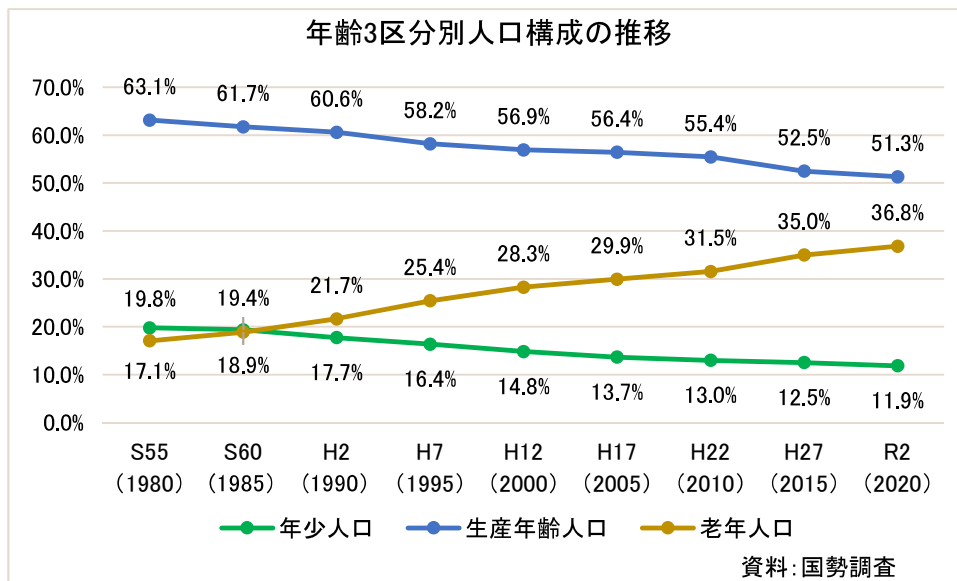


(2) 年齢構造

本市の年齢構造の長期的な推移をみると、年少人口、生産年齢人口は低下傾向、老年人口は上昇傾向が続いています。

令和2(2020)年における老年人口割合は36.8%であり、10年前の平成22(2010)年からは5.3ポイント、20年前の平成12(2000)年からは8.5ポイント上昇しています。また、20年前から生産年齢人口は、5.6ポイント、年少人口は2.9ポイントそれぞれ低下しています。

平成22(2010)年と令和2(2020)年の男女別5歳階級別の人口ピラミッドを比較すると、年少人口、生産年齢人口ともに、ほぼ全ての階級で減少しているのに対し、老年人口は団塊の世代が含まれる65～74歳の階級で増加が見られます。



(3) 地域別の人口・世帯

①概要

地域別の人口・世帯の分布をみると、全市人口・世帯の約70%を旧三次市が占め、南部の吉舎町が6.5%、三良坂町5.8%、三和町5.0%、甲奴町4.4%を占めているのに対し、北部の君田町2.8%、布野町2.6%、作木町2.3%がそれぞれ2%台を占めています。

平成22(2010)年から令和2(2020)年にかけての推移をみると、旧三次市が5.9%の減少に留まり、その他の地域では15.9%から26.3%減少しています。また、世帯数は、旧三次市が2.9%増加したのに対し、その他の地域では16.1%～20.0%と大きく減少しています。

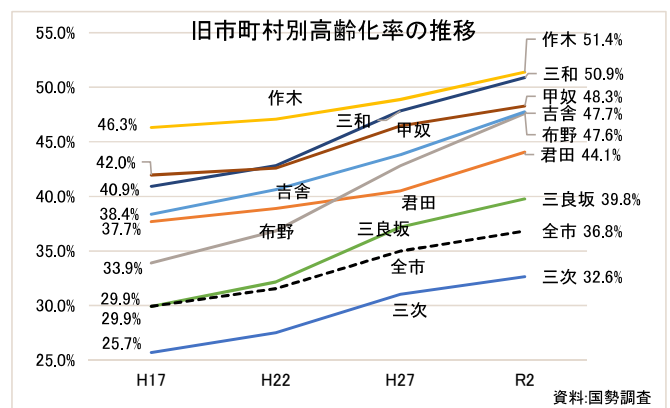
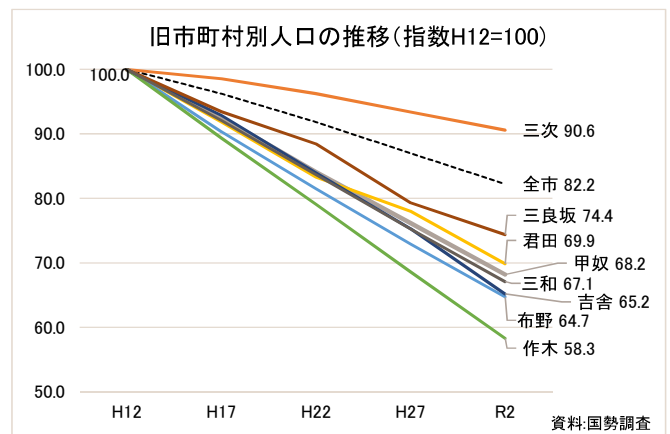
地域別の人口、世帯の推移

	総人口				総世帯数			
	H22 (人)	R2 (人)	割合 (R2)	H22～R2 増減率	H22 (世帯)	R2 (世帯)	割合 (R2)	H22～R2 増減率
三次市合計	56,605	50,681	100.0%	-10.5%	21,786	21,377	100.0%	-1.9%
旧三次市	38,013	35,775	70.6%	-5.9%	14,844	15,272	71.4%	2.9%
君田町	1,666	1,397	2.8%	-16.1%	559	500	2.3%	-10.6%
布野町	1,632	1,296	2.6%	-20.6%	578	490	2.3%	-15.2%
作木町	1,593	1,174	2.3%	-26.3%	629	503	2.4%	-20.0%
吉舎町	4,277	3,319	6.5%	-22.4%	1,664	1,401	6.6%	-15.8%
三良坂町	3,512	2,954	5.8%	-15.9%	1,325	1,244	5.8%	-6.1%
三和町	3,170	2,542	5.0%	-19.8%	1,172	1,075	5.0%	-8.3%
甲奴町	2,742	2,224	4.4%	-18.9%	1,015	892	4.2%	-12.1%

資料：国勢調査

平成12(2000)年を100とした指数による20年間の推移をみると、令和2(2020)年の旧三次市では90.6で約10ポイントの減少に留まっていますが、三良坂町74.4、君田町69.9、甲奴町68.2、三和町67.1、吉舎町65.2、布野町64.7、作木町58.3と25から40ポイント減少しています。

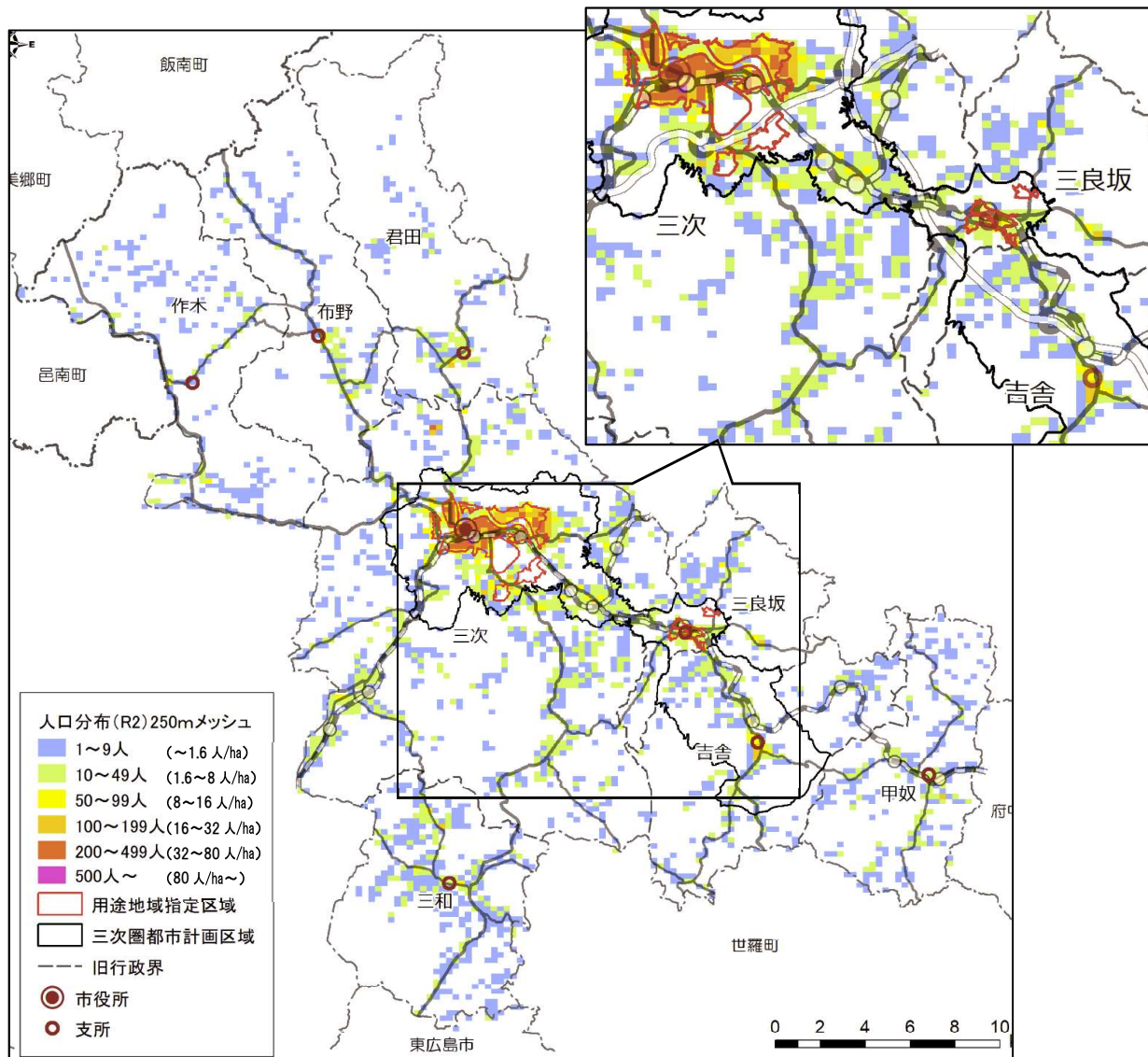
地域別の高齢化率の推移をみると、全市で平成17(2005)年の29.9%から令和2(2020)年には36.8%へ約7ポイント上昇しており、各地域においても同様にそれぞれ上昇が続いています。特に、作木町と旧三和町では、令和2(2020)年に50%を越える水準まで上昇しました。また、甲奴町、吉舎町、布野町では48%前後、君田町44.1%、三良坂町39.8%となっています。



②メッシュによる人口の分布

令和2(2020)年の250mメッシュによる人口分布をみると、旧三次市の用途地域指定区域内のうち、概ね中国自動車道以北に人口が分布しているほか、三良坂町の中心部や吉舎町の中心部に人口が分布しています。その他の地域では、人口が薄く分布しており、主に国・県道など主要な道路に沿って人口が分布しています。

■250mメッシュ人口（令和2(2020)年）

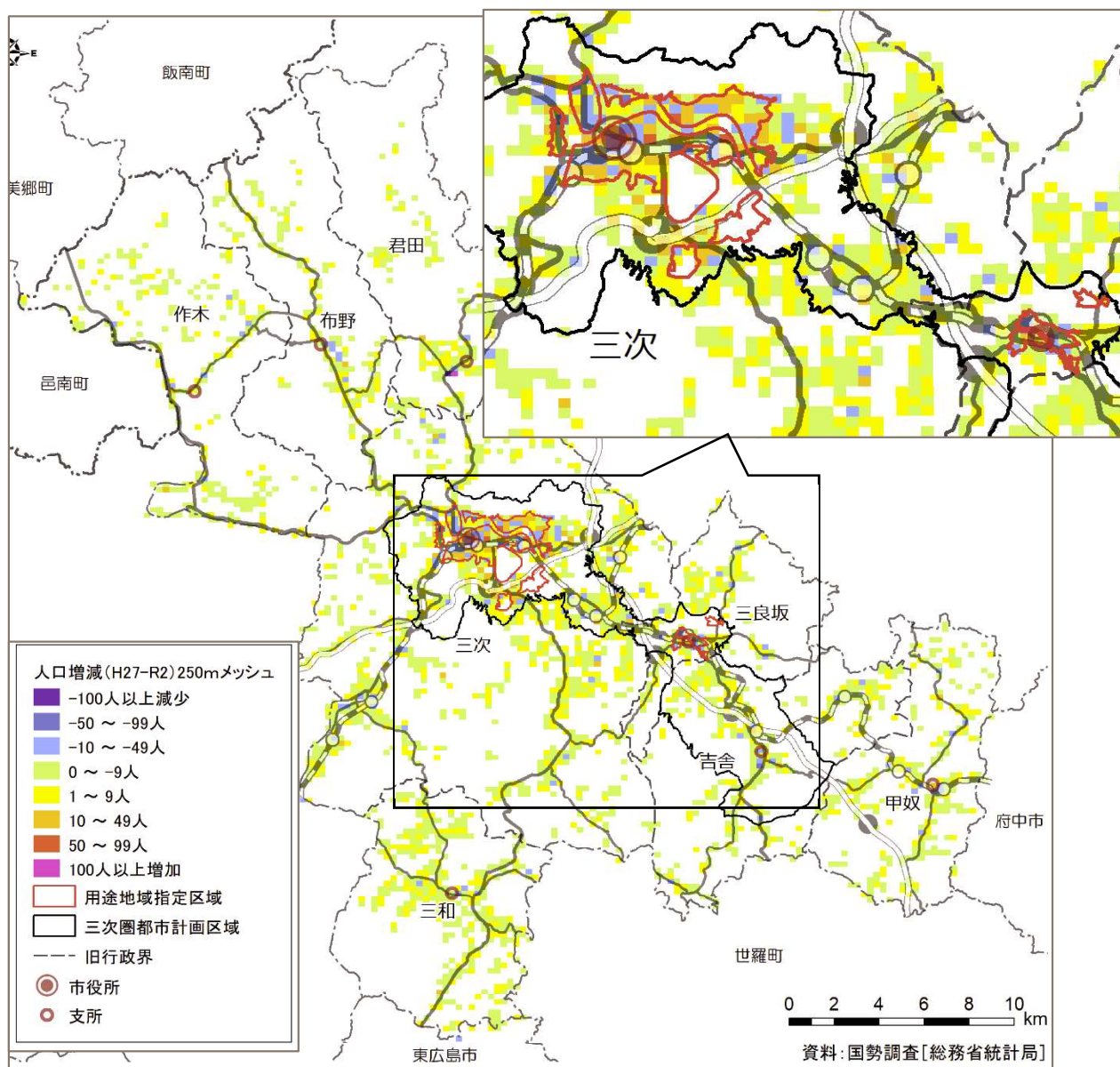


資料：国勢調査

250mメッシュの平成 27(2015)年から令和 2 (2020)年にかけての人口増減をみると、用途地域外や都市計画区域外においては0～-9人のメッシュ1～9人のメッシュが混在しており、人口の変動は小さいことが伺えます。

旧三次市の用途地域内については、-10～-49人のメッシュと10～49人のメッシュが混在しており、一部では50～99人のメッシュも見られるなど、人口の変動が大きいことが伺えます。

■250mメッシュ人口増減（令和 2 (2020)年）

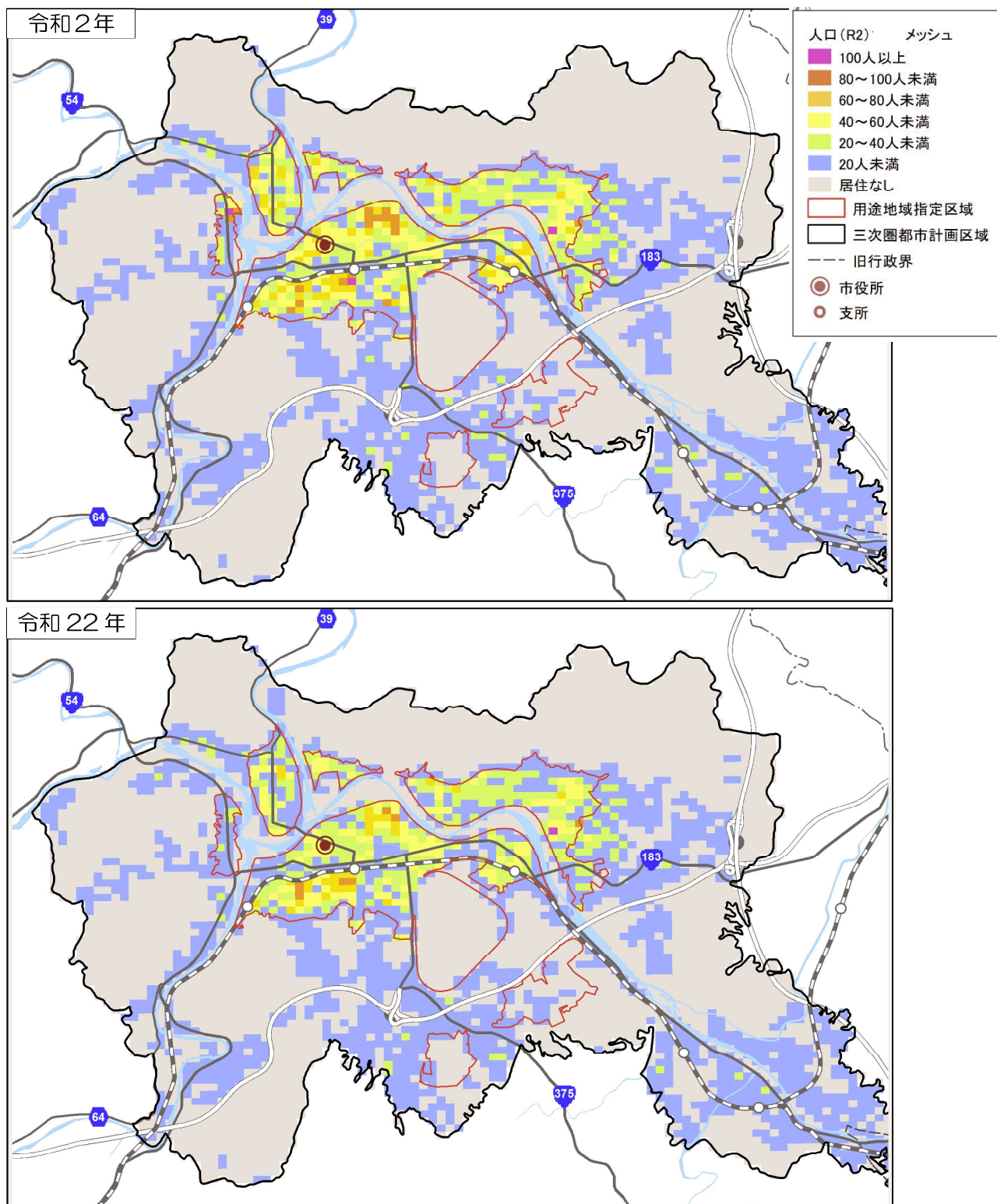


③100mメッシュによる人口分布（旧三次市街地）

三次地域の用途地域内を対象として、100mメッシュごとの人口分布及び将来推計をみると、令和2(2020)年では40人以上のメッシュが広く分布し、十日市東二、三丁目や十日市南五丁目、十日市西二、三丁目、畠敷町、及び粟屋町に80人以上のメッシュが複数分布しています。

しかし、令和22(2040)年には全体に20～40人未満、40～60人未満のメッシュが占める範囲が広がり、全体的に人口密度が低下することが伺えます。

■100mメッシュ人口分布



(4) 人口集中地区の推移

人口集中地区は、昭和 35(1960)年に旧三次市中心部の概ね J R 芸備線以北に設定され、面積は平成 17(2005)年まで拡大しましたが、その後縮小を続け、令和 2 (2020)年には 2.20 k m²となっています。

人口集中地区の人口密度は、昭和 35(1960)年以降、低下傾向が続き、平成 17(2005)年以降は 40 人 /ha を下回っており、これまで薄く広く市街地が広がってきたことが伺えます。

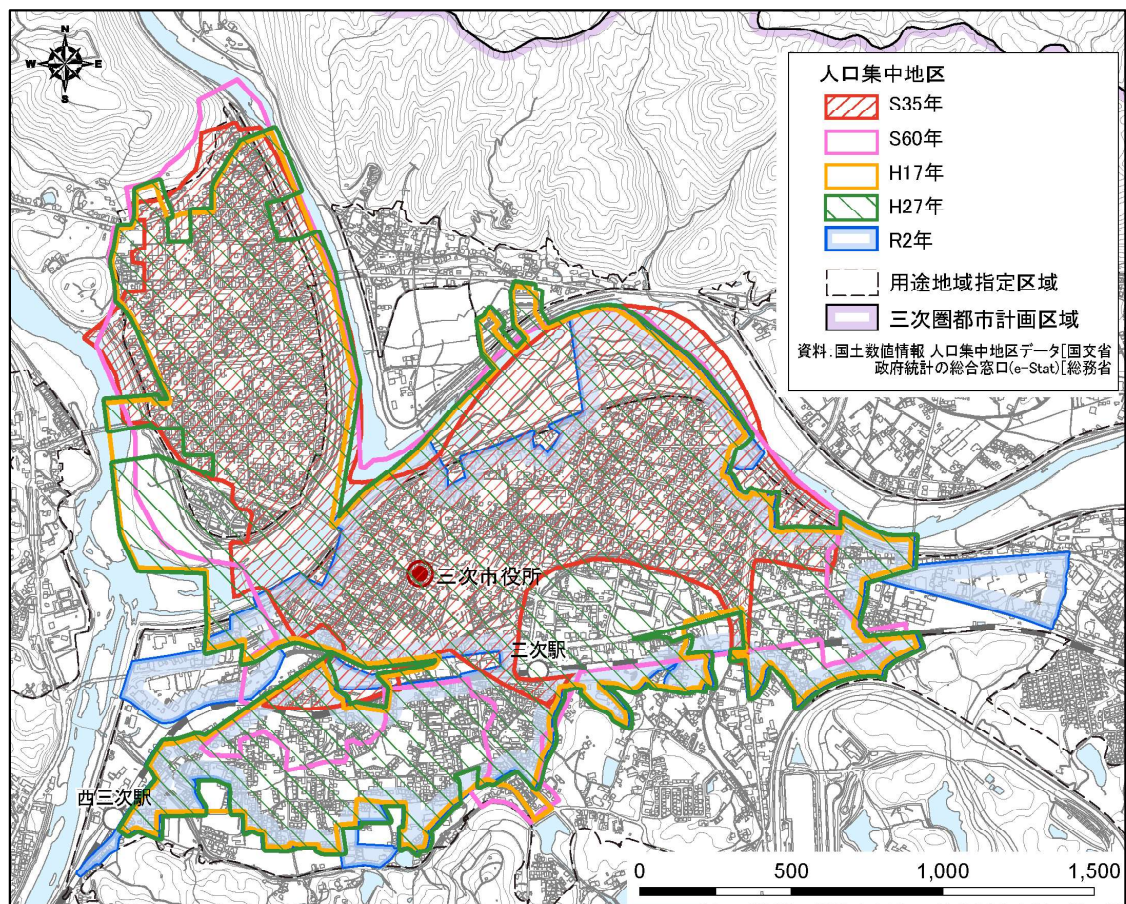
なお、人口集中地区面積が縮小したため、人口密度は 40 人/ha まで回復しています。

人口集中地区の推移

	総人口	DID人口	総人口に 占める割合 %	5ヶ年 増減数	面積	人口 密度
	人	人		人	km ²	人/ha
S35	83,030	13,549	16.3%	-	2.30	58.9
S45	71,708	12,622	17.6%	420	2.30	54.9
S50	65,561	12,282	18.7%	-340	2.50	49.1
S55	64,190	11,326	17.6%	-956	2.60	43.6
S60	63,582	11,818	18.6%	492	2.80	42.2
H2	64,089	11,698	18.3%	-120	2.90	40.3
H7	63,596	12,700	20.0%	1,002	3.00	42.5
H12	62,910	12,352	19.6%	-348	3.05	40.5
H17	61,635	12,428	20.2%	76	3.13	39.7
H22	59,314	11,930	20.1%	-498	3.05	39.1
H27	56,605	11,465	20.3%	-465	3.03	37.8
R2	50,681	8,793	17.3%	-2,672	2.20	40.0

※赤枠は下図に表示した年次

資料：国勢調査

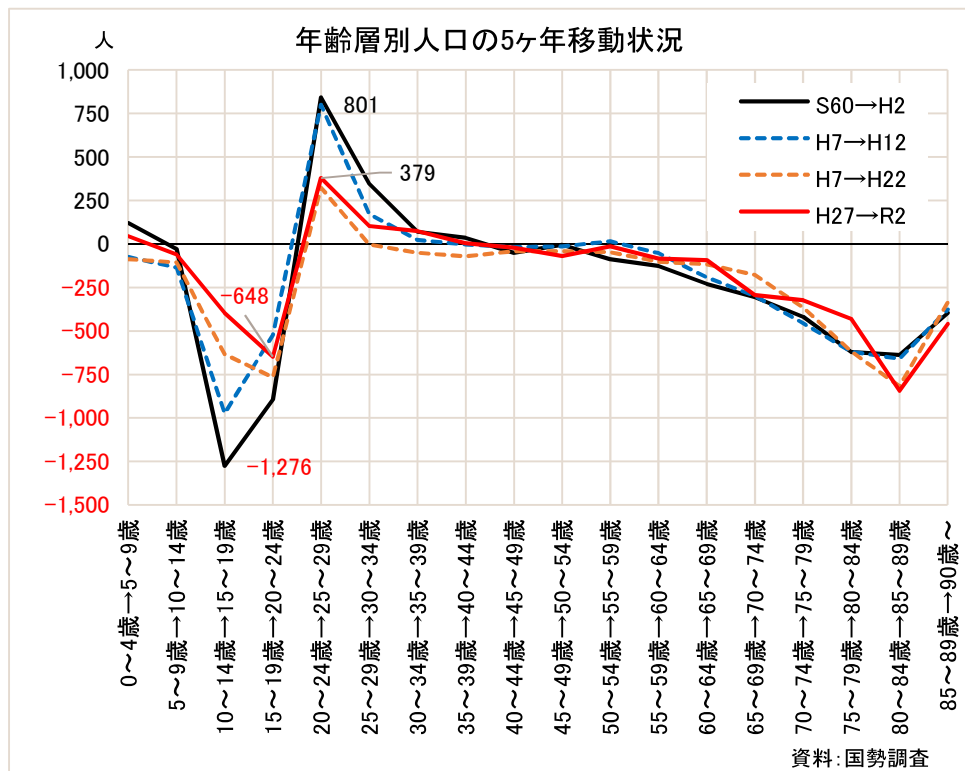
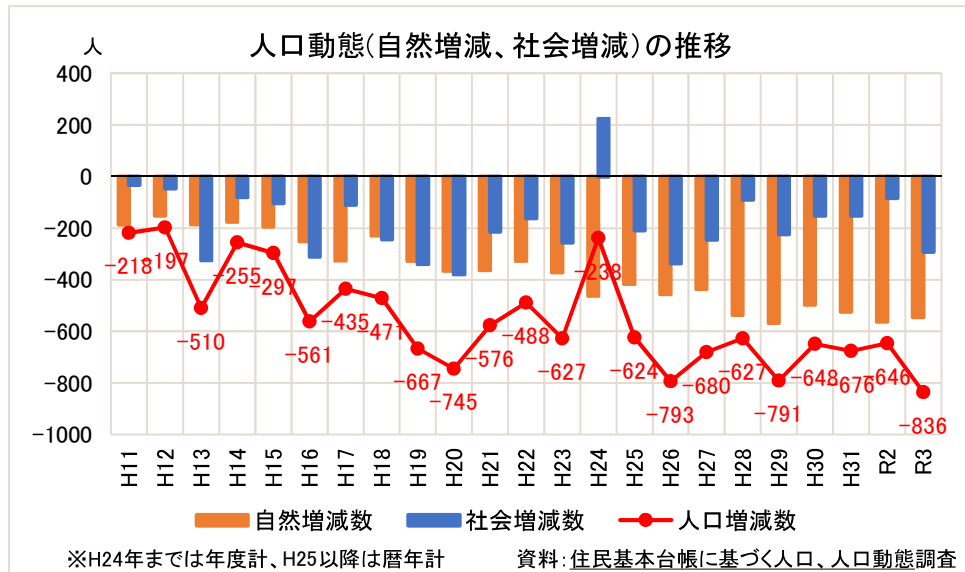


(5) 人口動態

人口動態の推移をみると、出生数を死亡数が上回る自然減が続いており、転入転出による社会動態についても、平成 24(2012)年を除き社会減が続いています。

この結果、近年の人口動態は、毎年 600～700 人の減少が続いており、長期的な推移では減少幅が拡大する傾向を示しています。

5 ヶ年の 5 歳階級別人口動態の動向を見ると、10 歳～24 歳の階層において大きく減少し、20 歳～34 歳の階層において大きく増加するというパターンが続いていることから、進学や就職による減少、帰省等による増加が伺えます。



(6) 流入流出状況

①通勤・通学

通勤通学による流入流出人口をみると、他市町村からの流入者が 4,706 人であるのに対し、市内から他市町村への流出者が 4,226 人であり、480 人の流入超過となっています。

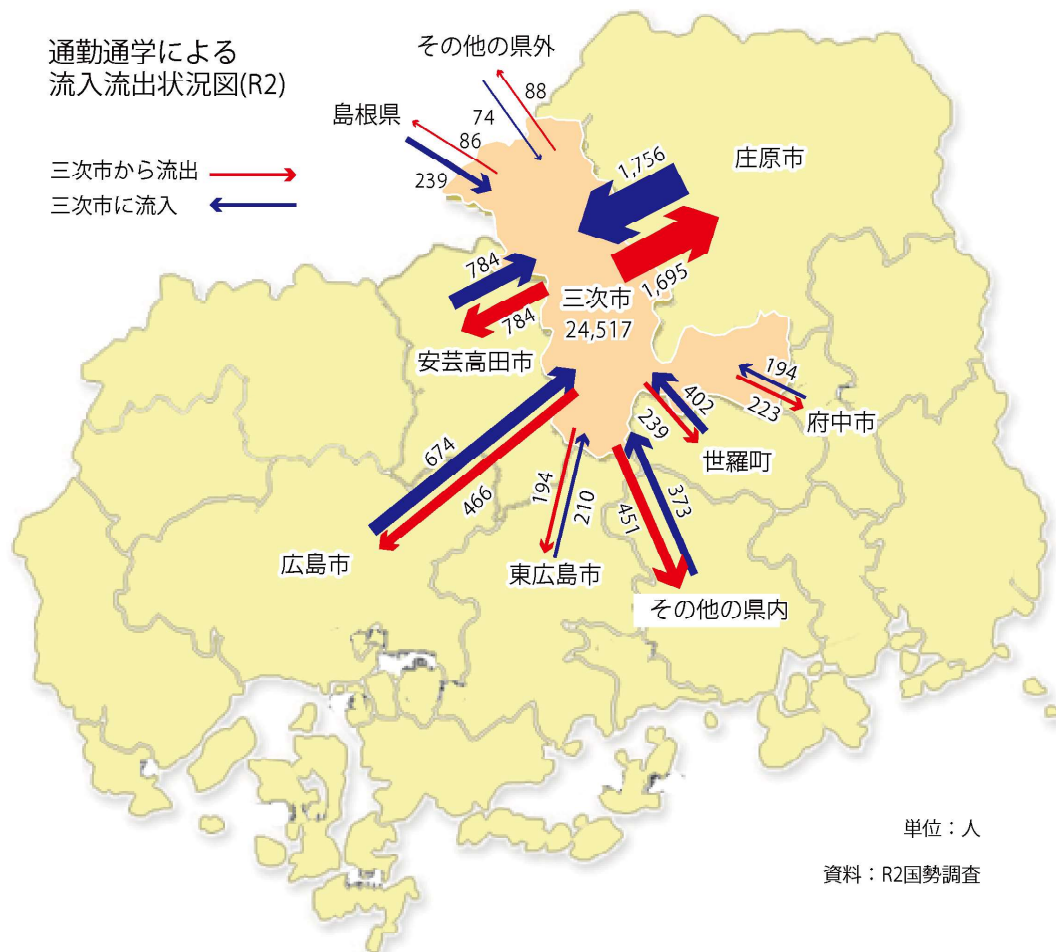
流入元、流出先は、庄原市が最も多く、次いで安芸高田市、広島市、世羅町、東広島市と続いています。これらの市町との間ではいずれも流入超過となっています。

通勤・通学による流入流出人口の状況(R2) (人)

従業地・通学地の人口(流入)		常住地の人口(流出)		流入人口 － 流出人口
区分	総数	区分	総数	
従業・通学地人口	30,837	常住地による人口	30,215	622
市内に常住	24,517	市内に常住	24,517	－
市外に常住	4,706	市外で従業・通学	4,226	480
庄原市	1,756	庄原市	1,695	61
安芸高田市	784	安芸高田市	784	0
広島市	674	広島市	466	208
世羅町	402	世羅町	239	163
東広島市	210	東広島市	194	16
府中市	194	府中市	223	-29
福山市	84	福山市	75	9
尾道市	62	尾道市	43	19
北広島町	58	北広島町	86	-28
その他県内	169	その他県内	247	-78
島根県	239	島根県	86	153
その他県外	74	その他県外	88	-14
従業・通学市区町村「不詳・外国」	142	従業・通学市区町村「不詳」	142	－
従業地・通学地「不詳」	1,472	従業地・通学地「不詳」	1,472	－

注「従業地・通学地不詳」「従業・通学市区町村不詳」があるため合計が一致しない場合がある

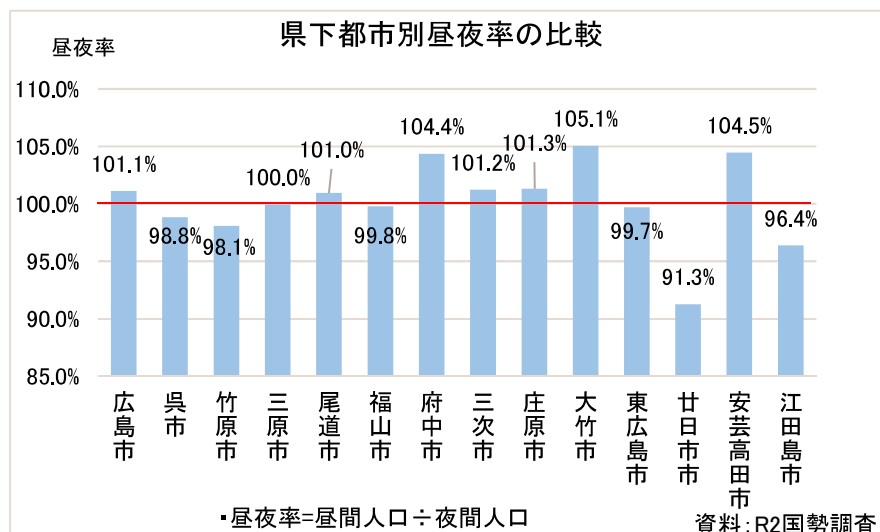
資料：令和2年国勢調査



②昼夜率

県下の都市について昼夜率を比較すると、最も昼夜率が高い都市は大竹市であり、次いで安芸高田市、府中市、庄原市、三次市と続いています。これらの都市に共通することは、人口規模が相対的に小さいこと、大竹市以外はいずれも中国山地に囲まれた内陸部に位置することが挙げられます。

人口規模が小さい場合は、市内にまとまった工場の立地などがあると値が敏感に反応する傾向にあることが要因として考えられます。また立地条件からは、内陸部ということと瀬戸内海沿岸と比べると公共交通利便性が相対的に低いことから近傍都市に通勤通学圏域が限られ、流動量も小さくなり、瀬戸内海沿岸に連なる都市部への通勤通学による流動が限定的となることが推定されます。

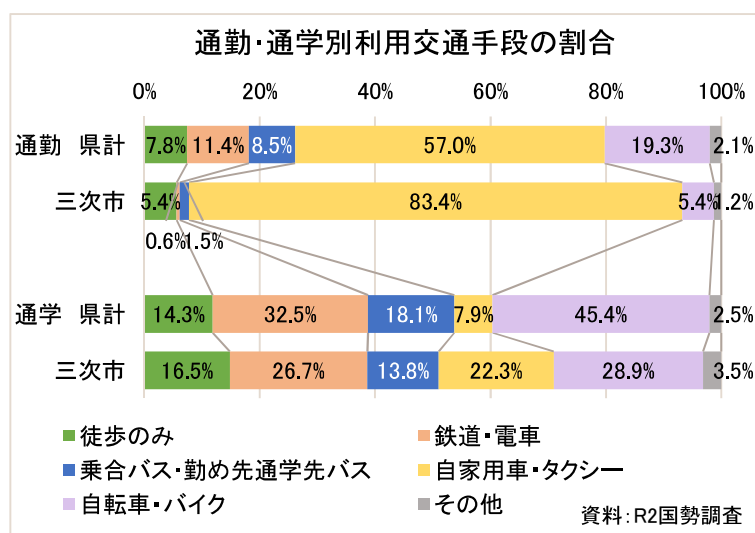


③利用交通手段

通勤時の利用交通手段をみると、通勤の県合計では、鉄道やバスといった公共交通が約 20%であるのに対し、本市では約 2%に留まっています。一方で、自家用車等は、県合計の 57.0%に対し、三次市では 83.4%に達しています。

通学時の利用交通手段についても、県合計では自家用車 7.9%に対し、三次市では自家用車 22.3%で自家用車の割合が高くなっています。

これらより、三次市では、県合計に比べて自家用車等に依存した通勤形態であることが伺えます。

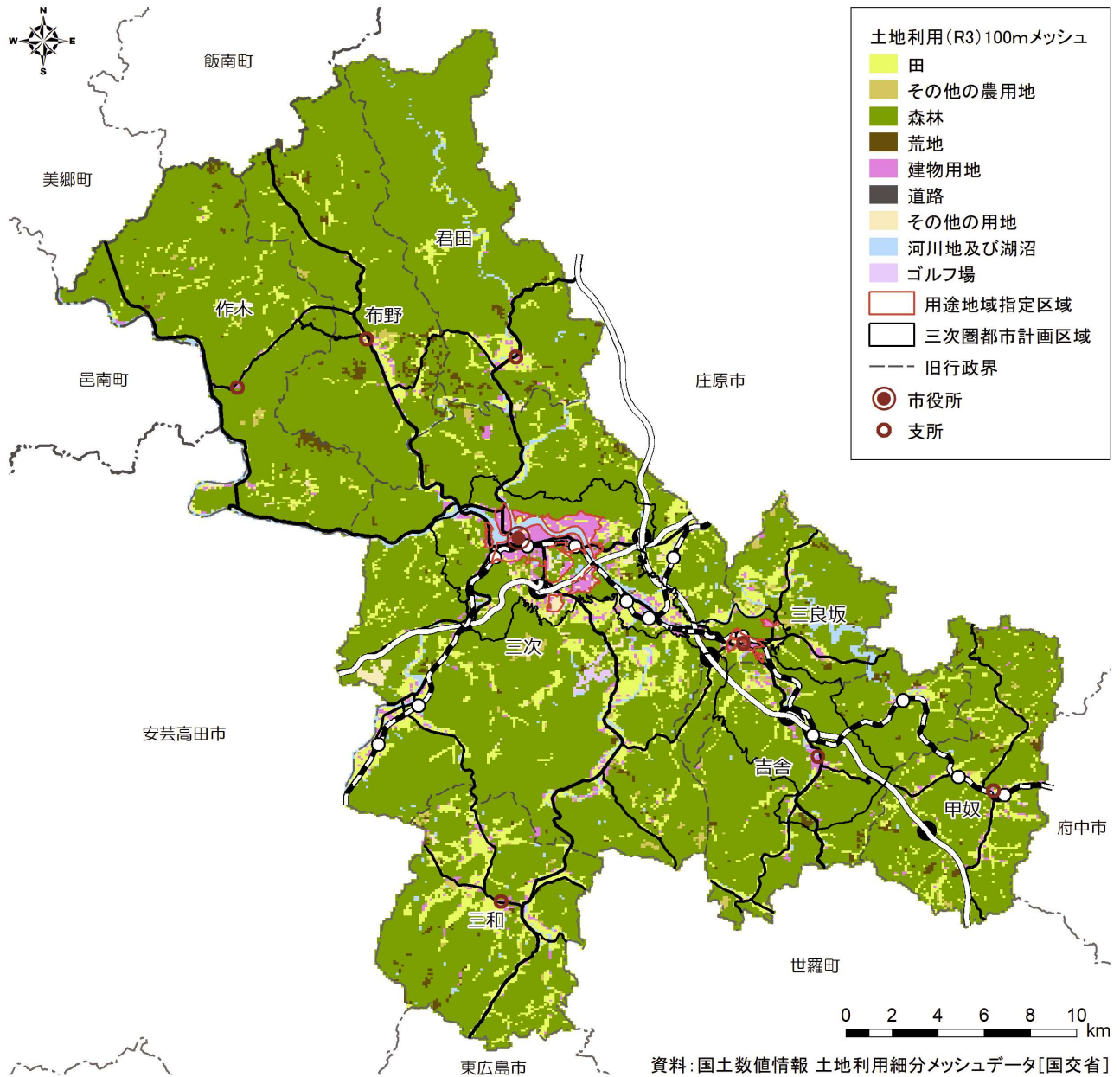


2 土地利用・開発動向

(1) 土地利用状況

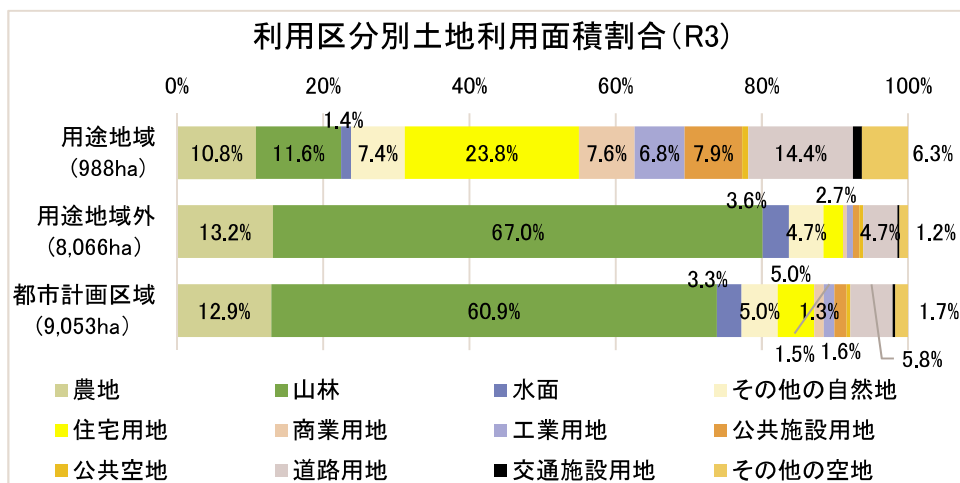
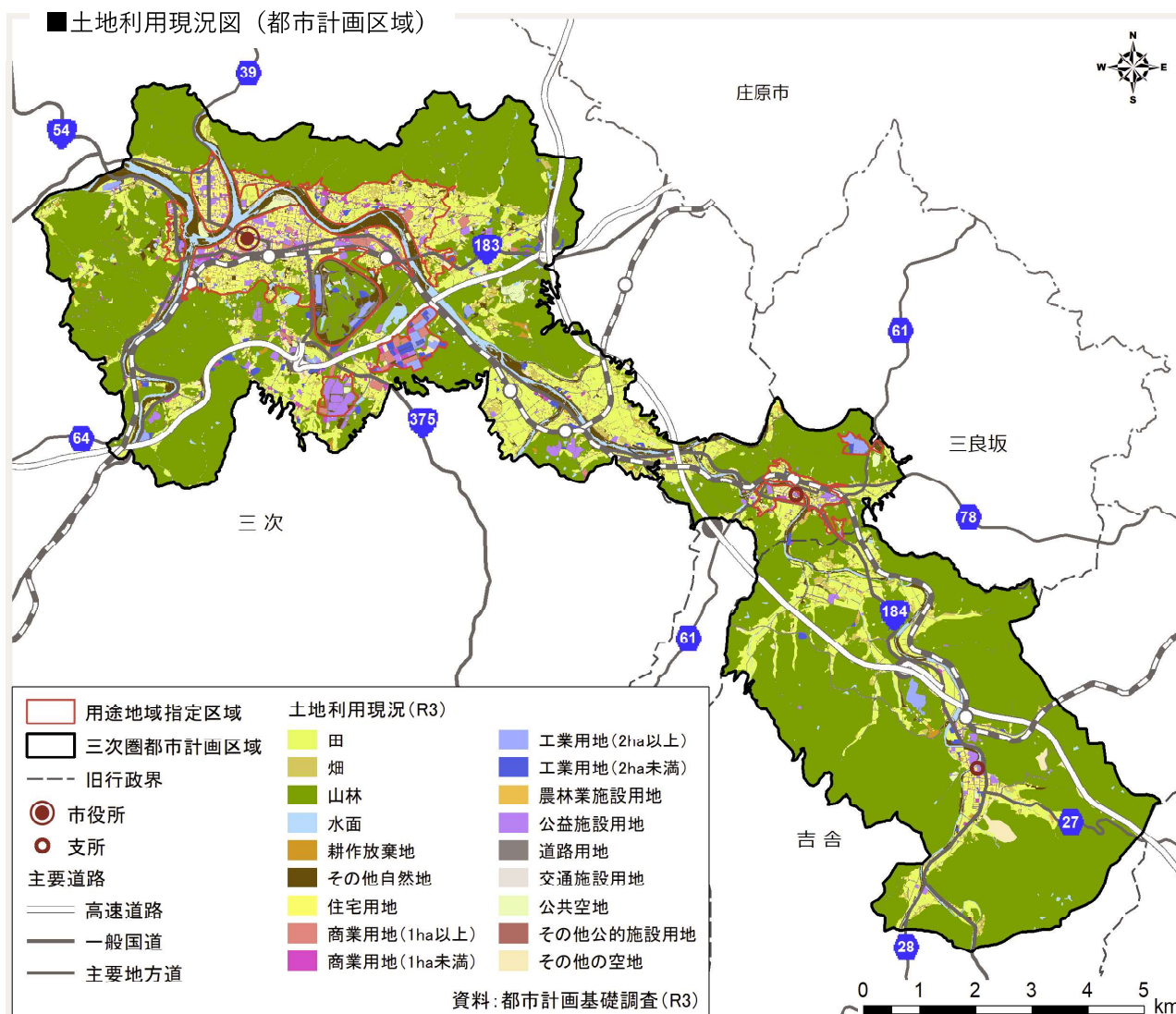
本市全域の土地利用状況をみると、用途地域内を除いて大部分を森林が占め、河川や国・県道及び主要な市道に沿ったエリアには、農地が分布しています。建物用地がほとんどない状況が示されています。

■100mメッシュによる土地利用現況図



都市計画区域内の土地利用をみると、宅地の利用は用途地域が指定された区域内に集中しており、用途地域の指定外では山林や農地利用が主となっています。特に地形条件から山林利用が多くなっています。

面積で見ると、用途地域内では住宅用地、商業用地、工業用地及び公益施設用地の合計が46.1%に達し、これに道路や交通施設、公園等を含む都市的土地利用は68.8%と7割近くなっています。これに対して、用途地域外では都市的土地利用が11.5%で、自然的土地利用の中の山林が67.0%となっています。



(2) 開発動向

平成 22(2010)年から令和 4 (2022)年の開発許可状況は、件数合計 19 件、面積 12.6ha となっています。開発年は、平成 22(2010)年から 26(2014)年までが 10 件で最も多く、平成 27(2015)年から令和元(2019)年 4 件、令和 2 (2020)年以降が 5 件です。平成 22(2010)年から平成 26(2014)年までは、公共施設その他が 6 件で、この間には病院、市民ホール、斎場、小中学校（三良坂）などの開発が行われています。

用途別では、上記の公共施設その他が 7 件、店舗・事務所等が 6 件で、住宅地開発は 2 件と少なくなっています。

都市計画の地域別では、用途地域内 10 件、用途地域外 9 件で開きは見られません。開発のエリアとしては、市街地の外周部に分散する傾向及び中国自動車道三次 I C の南の用途地域外にやや多い傾向が見られます。

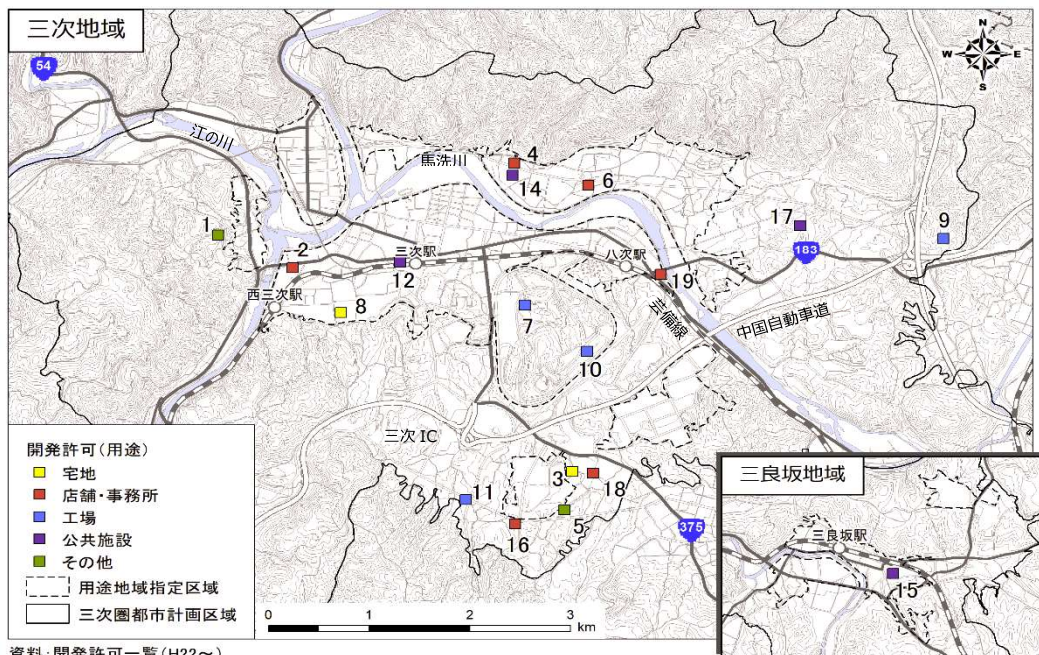
開発許可状況(H22～)

(件、ha)

	合計	用途別件数				地域別件数	
		住宅地	店舗・事務所	工場	公共施設その他	用途地域	用途地域外
H22～H26 (件)	10	1	3	0	6	5	5
H27～R1 (件)	4	1	1	2	0	3	1
R2～(件)	5	0	2	2	1	2	3
合計件数 (件)	19	2	6	4	7	10	9
合計面積 (ha)	12.60	1.32	3.20	0.78	7.30	5.66	6.94

注)用途地域外には、都市計画区域外(1件)を含む

資料:庁内資料



資料:開発許可一覧(H22～)

開発許可一覧(平成22年度以降)

図面No.	許可年度	用途	開発目的	面積(ha)	市街地区分	備考
1	H22年度	その他	病院(重症心身障害児施設)	1.45	用途地域外	
2	H23年度	店舗・事務所	貸店舗(家電製品販売店)	0.68	用途地域	
3	H24年度	住宅地	分譲宅地19区画	0.80	用途地域外	
4	H25年度	店舗・事務所	物品販売業を営む店舗	0.97	用途地域	
5	H25年度	その他	葬儀場	0.77	用途地域外	
6	H27年度	店舗・事務所	自己の業務用店舗	0.55	用途地域	
7	H27年度	工場	自動車試験場	-	用途地域	
8	H28年度	住宅地	分譲宅地14区画	0.52	用途地域	
9	H30年度	工場	醸造棟	0.50	用途地域外	
10	R2年度	工場	車両開発の為に試験炉及び整備場	-	用途地域	
11	R3年度	工場	自己用事務所・倉庫・資材置場	0.28	用途地域外	
12	H22年度	公共施設	十日市コミュニティセンター	0.36	用途地域	§ 34の2
13	H22年度	公共施設	斎場	1.65	都市計画区域外	§ 34の2
14	H24年度	公共施設	市民ホール	1.48	用途地域	§ 34の2
15	H25年度	公共施設	小学校、中学校	0.75	用途地域	§ 34の2
16	H25年度	店舗・事務所	店舗(トレタミよし)	0.60	用途地域外	§ 34の2
17	R3年度	公共施設	学校給食調理場	0.84	用途地域外	§ 34の2
18	R4年度	店舗・事務所	自己の業務用店舗	0.04	用途地域外	
19	R4年度	店舗・事務所	店舗兼事務所、自動車整備工場、中古車展示場	0.35	用途地域	

No13は都市計画区域外で、上記図面外のため図面表示していない

資料:庁内資料

§ 34の2 (都市計画法34条の2) は、開発事業者が行政等

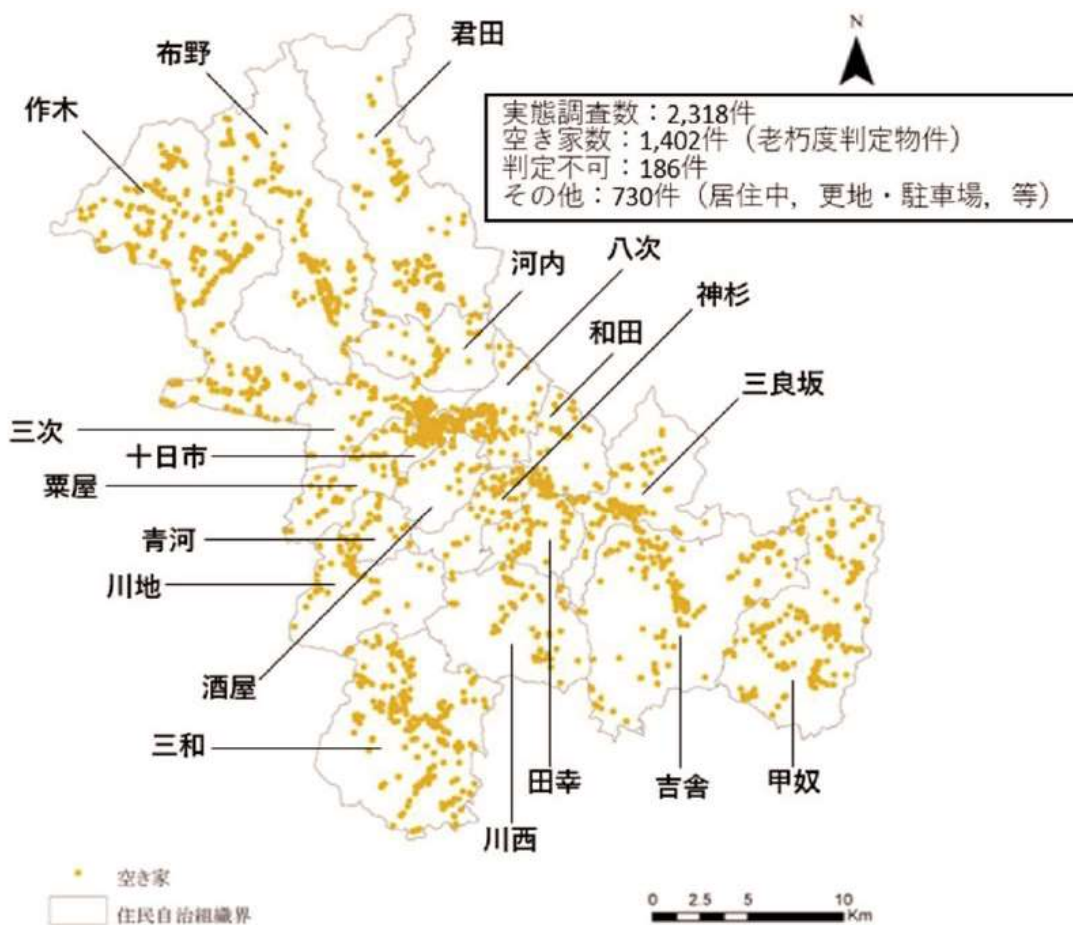
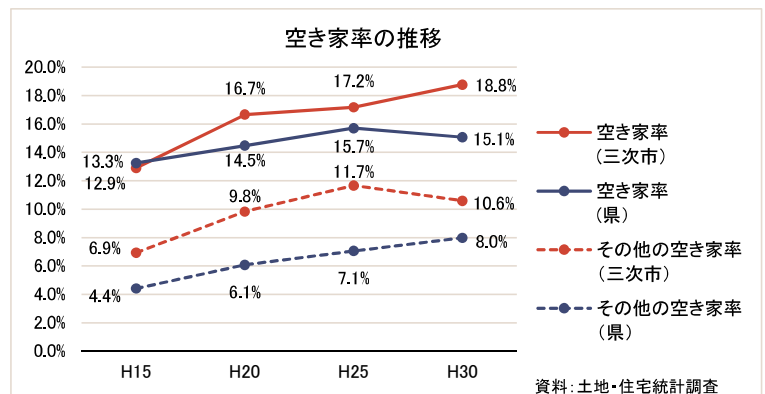
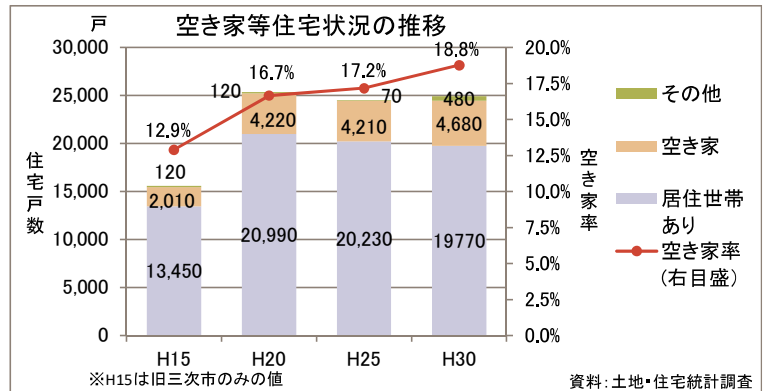
(3) 空き家の状況

空き家の状況をみると、平成30(2018)年の空き家戸数は 4,680 戸で総戸数に占める割合は 18.8%となり、平成 15(2003)年から約 6 ポイント上昇しています。

また、賃貸空き家など管理が行われている空き家を除く「その他の空き家」は 10.6%であり、平成 25(2013)年の 11.7%から低下しています。

県平均と比較すると空き家率、その他の空き家率ともに県平均を上回っています。

また平成 28(2016)年に実施された「空き家実態調査」では、市内全域において住宅が立地する地域においては、いずれの地域においても空き家の存在が判別されています。



資料：平成 28 年度三次市空家等実態調査より作成 ※ルンヅ点：調査対象 2,318 件分布

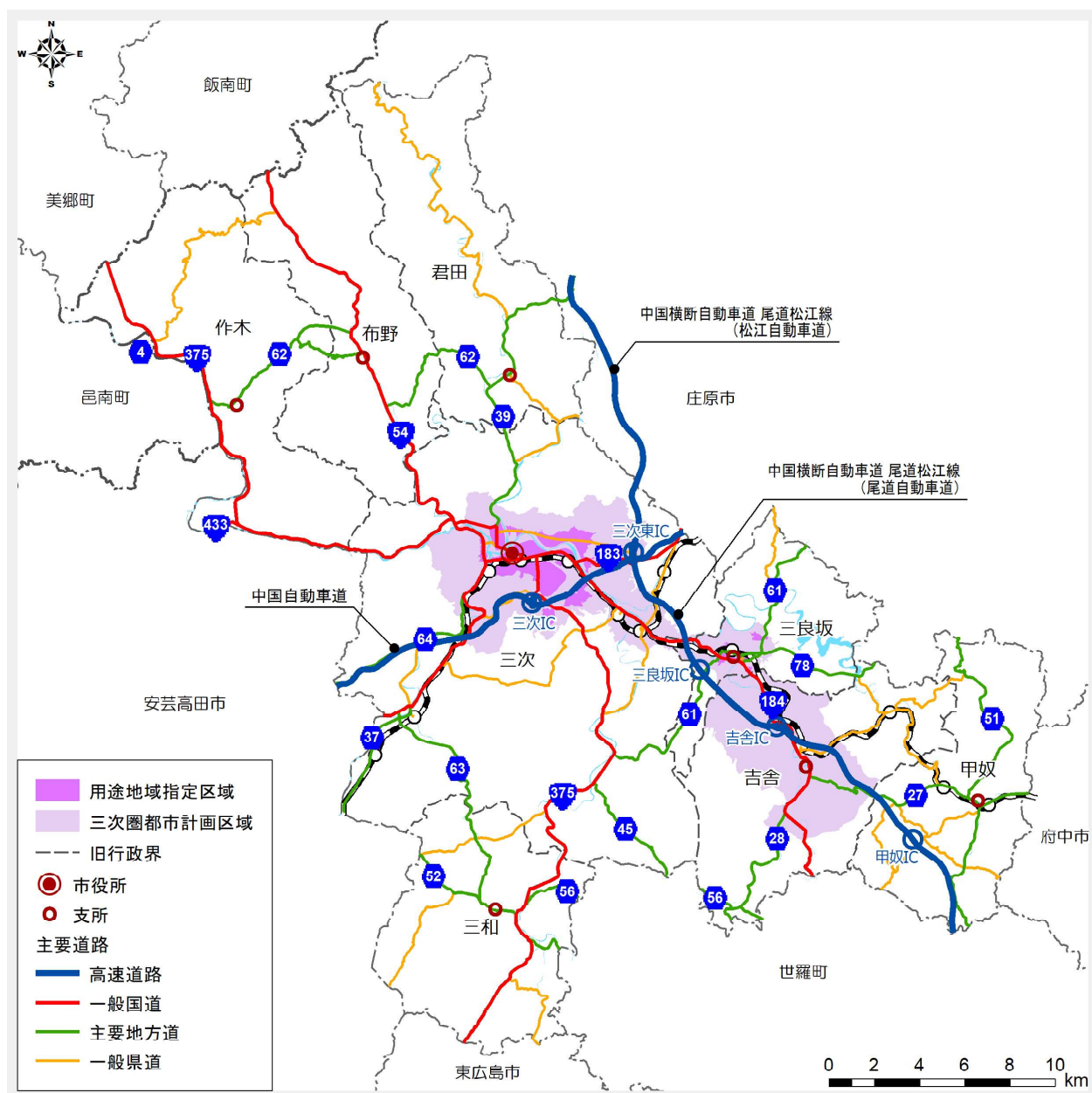
3 都市交通の状況

(1) 交通体系の状況

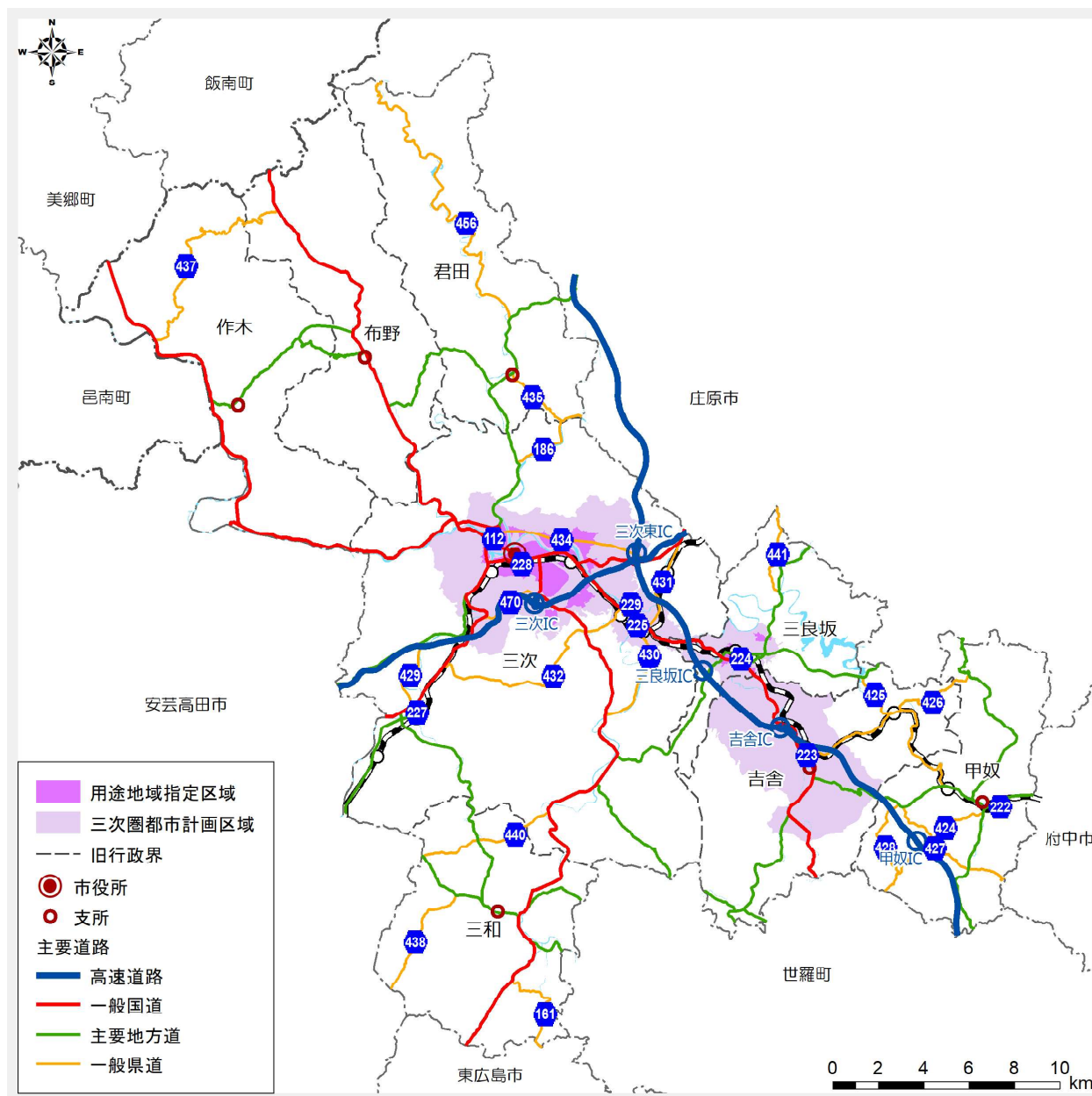
本市の交通体系は、骨格的路線として鉄道がＪＲ芸備線、ＪＲ福塩線の２路線、高速道路が中央部を東西に貫く中国自動車道と市東部を南北に經由する中国横断自動車道尾道松江線より構成されています。また、国道が市の中央部から放射状に４路線が延びています。これに市内各地域を結ぶ主要地方道７路線により、市内の主要交通体系が形成されています。

このほか、一般県道 13 路線及びバス路線（路線バス、コミュニティバス等）により、市内の交通網が形成されています。

■主要道路の位置図



■一般県道の位置図



自動車専用道路	中国自動車道		一般県道	424	甲奴インター線
	中国横断自動車道尾道松江線			425	梶田三良坂線
一般国道	一般国道 5 4 号			427	宇賀矢野線
	一般国道 1 8 3 号			428	宇賀安田線
	一般国道 1 8 4 号			429	若屋秋町線
	一般国道 3 7 5 号			430	糸井塩町線
主要地方道	27	吉舎油木線		431	和知塩町線
	39	三次高野線		432	青河江田川之内線
	45	三次大和線		433	穴笠三次線
	51	甲山甲奴上市線		434	和知三次線
	52	世羅甲田線		436	香淀三次線
	61	三次庄原線		440	羽出庭三良坂線
	62	庄原作木線		470	三次インター線

(2) 公共交通の状況

公共交通は、鉄道が広島駅～三次駅～備後庄原駅～岡山県新見市備中神代駅を結ぶＪＲ芸備線と、塩町駅、福山駅を結ぶＪＲ福塩線の２路線が経過しており、市内にはＪＲ芸備線８駅、ＪＲ福塩線５駅の計１３駅が設置されています。

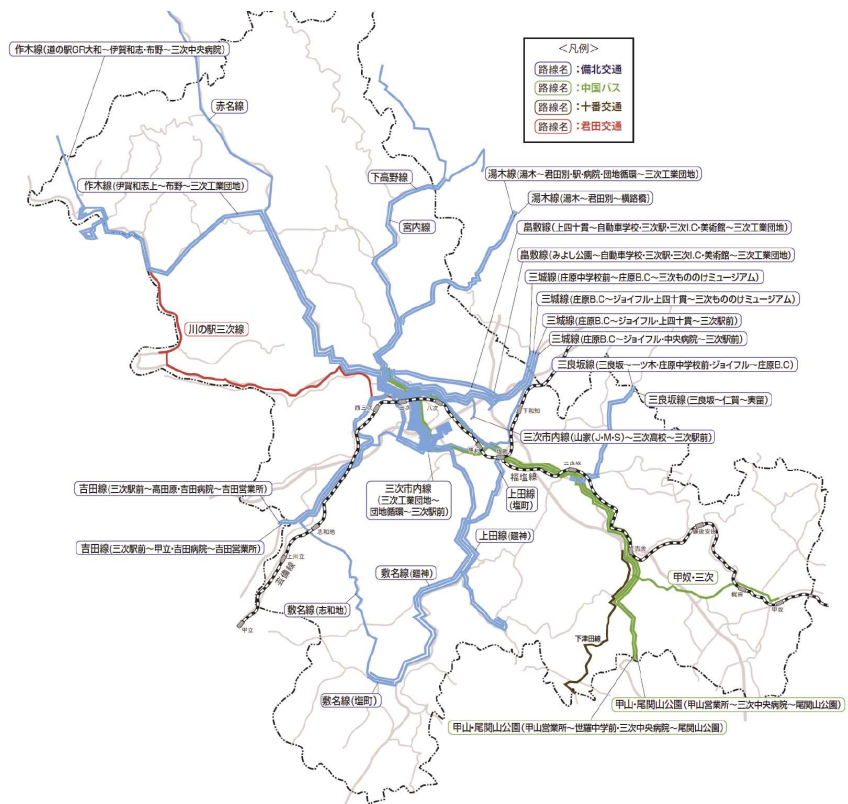
■鉄道路線図



バスは、路線バスが備北交通（25系統）、中国バス（3系統）、十番バス（1系統）、君田交通（1系統）の合計30系統が運行されています。このうち2系統はＪＲ三江線廃止に伴う代替バスとしての運行です。

また、市中心部を循環するくるるんバス及び旧町村部の利便を図るために運行されている市民バス等が主に日常的な市民の足として活用されています。

■路線バス路線図



令和2(2020)年11月2日現在

資料：三次市地域公共交通計画（令和3年3月）

本市では路線バスのネットワークから外れる区域について、旧三次市街地部で市街地循環バスくると、旧町村部ごとに運行される市民バス及び予約型タクシー（ふれあいタクシーみらさか）がそれぞれ運行されています。

■市民バス等及び市街地循環バスくるとの運行と料金

路線			運行回数	備考・料金(大人)
市街地循環バスくるるん			一日定時 8便	・均一 200円
市民バス	君田線	赤コース	月～土 1往復 月・木 1.5往復	・均一 100円
		緑コース	水曜日1往復	
		青コース	月～土 2往復 月～土 1便	
	布野町線	月・金コース	片道 4便 帰り 3便	・均一 100円
		水コース	片道 4便 帰り 3便	
	作木町線	下地区	月・木・金 1往復	・均一 100円 ・フリー乗降方式
		中地区	月・火・水 1往復	
		上地区	火・水・木 1往復	
	吉舎町線	Aコース	月・水 1往復	・均一 100円
		Bコース	月・水 1往復	
		Cコース	月・木 1往復	
		Dコース	火・木 1往復	
Eコース		火・金 1往復		
Fコース		火・金 1往復		
ふれあいタクシーみらさか			月・水・金に運行 一日 3便 ・三良坂町内から指定目的地の施設(三良坂支所周辺の8施設)を結ぶタクシー	・自宅と指定場所を結ぶ予約型タクシー(要利用登録、要予約) ・料金 片道 300円
市民バス	三和町線	下板木コース	火 往路1便+復路 金 往路2便 復路1便	・均一 100円
		敷名コース	月・水 往復1便	
		上山コース	火 往路1便+復路 木 往路2便 復路1便	
		板木コース	水 往路1便+復路 金 往路2便 復路1便	
	甲奴町線	上川・福田・梶田の一部エリア	水・金 3往復	・要電話予約(自宅まで迎車) ・均一 300円
		宇賀・広石・梶田の一部エリア	火・木 3往復	
		小童・西野・本郷エリア	月・木 3往復	

■市街地循環バスくるとん運行ルート



■市民バス作木町線



■市民バス布野町線



■市民バス君田町線



■市民バス吉舎町線

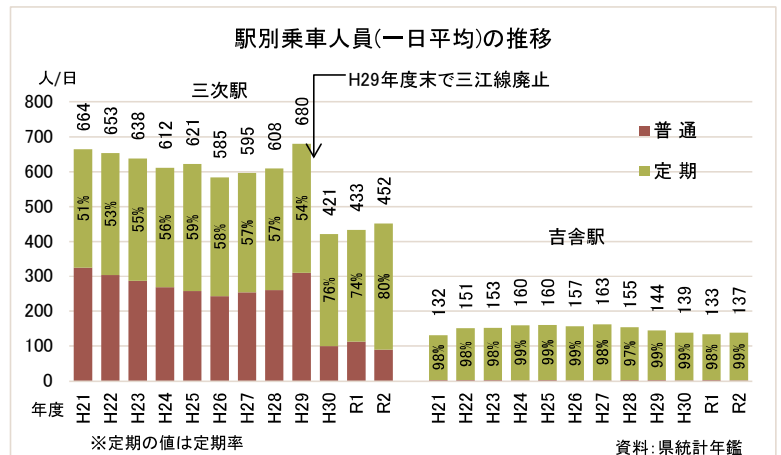


(3) 公共交通の利用状況

① 鉄道

J R 三次駅の乗車人員は、概ね一日平均 600 人前後で推移していましたが、三江線の廃止や新型コロナ禍の影響もあり、平成 29(2017)年以降は 450 人前後に落ち込んでいます。特に普通券による乗車人員が大きく減少しています。

J R 吉舎駅の普通券による乗車人員が 0 なのは、吉舎駅の利用者は定期券利用の学生が占めているためです。



② 路線バス

路線バスの市内利用人員は、年間 15 万人前後で推移しています。一日平均で見ると 410 人/日となります。

路線バスの系統別の収支状況では、30%を下回る系統が過半数を占めており、特に 20%を下回るものは 9 系統で、約 3 割を占めています。

路線バスの運行については、国、県、市により様々な補助制度が設けられていますが、それでも厳しい状況にあり、今後の路線の維持が課題となっています。

■ 路線バス利用人員の推移



[資料] 備北交通、中国バス、十番交通、君田交通

※前年 10 月～当年 9 月までの 1 年間

※市外と連絡する路線は、系統別の利用者数を市内運行距離の比率で按分して算出

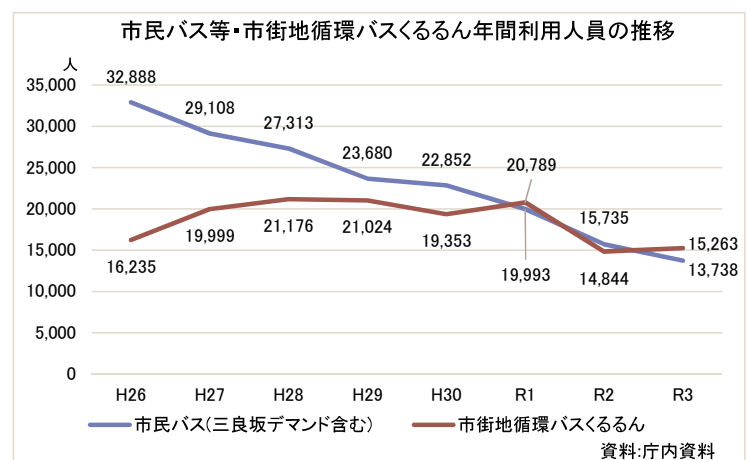
※三江線代替バス利用者を含む

資料：三次市地域公共交通計画（令和 3 年 3 月策定）より

③ コミュニティバス

市民バス等及び市街地循環バスくるんの利用人員は、令和 3 (2021) 年度は市民バス等が約 14,000 人、くるんバスが約 15,000 人となっています。

このうち、市街地循環バスくるんは、近年の新型コロナの影響が見られますが、比較的安定した利用が続いているといえます。これに対して市民バス等は、平成 26(2014)年度に比べて半減以上の減少となっており、減少傾向に歯止めが見られないことから、利用の向上に向けた対応が必要となっています。



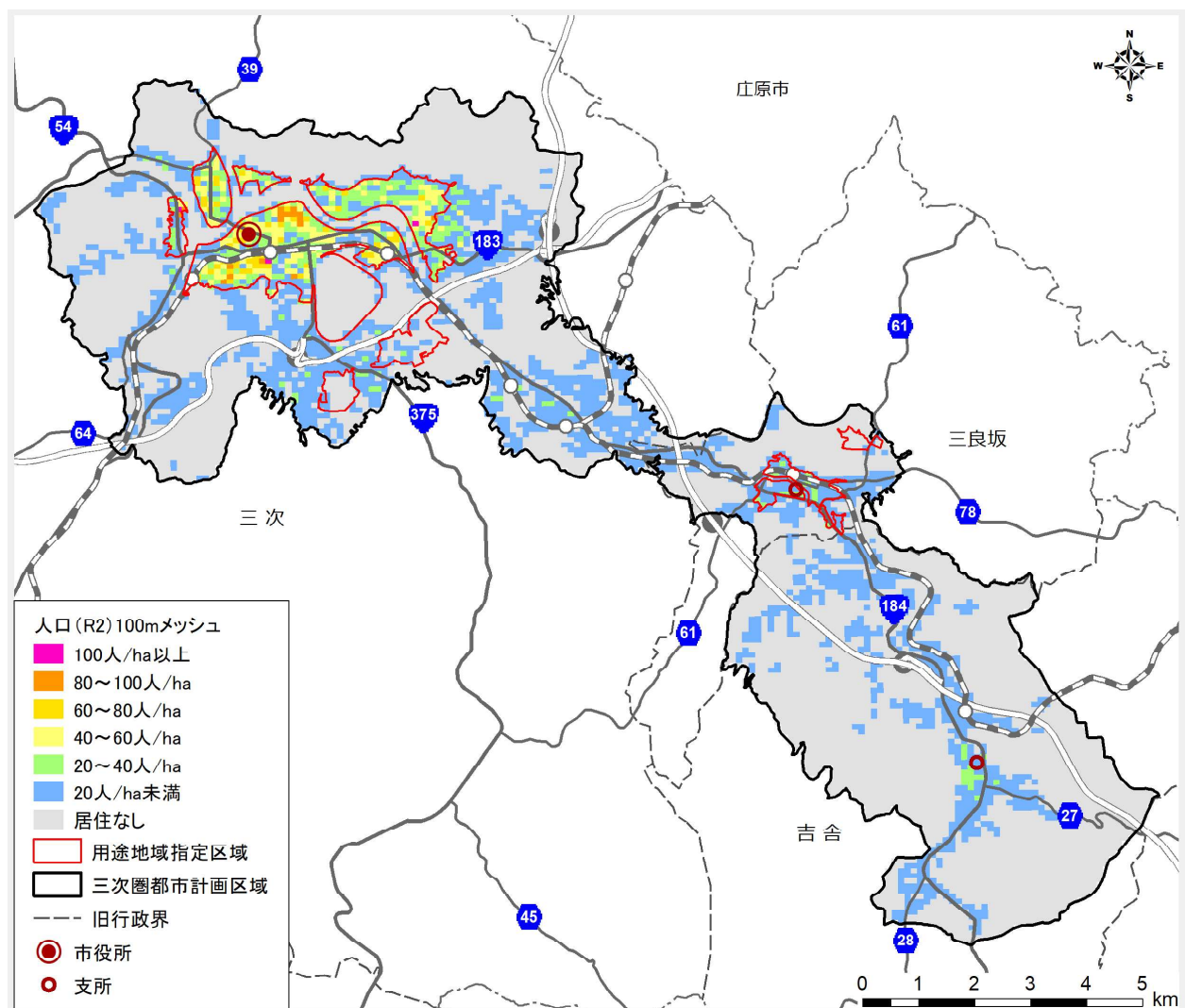
4. 都市機能の立地状況（都市計画区域）

都市機能の立地状況と人口の分布（100mメッシュ）から、生活利便性の状況を把握します。

対象とする施設は以下の通りです。これらの各施設から徒歩圏として半径 500m 圏を設定し、この圏域に含まれるメッシュ人口をカウントしてサービス圏域人口を求めます。ここで用いるメッシュ人口は、「メッシュによる人口の分布」の 100mメッシュによる人口で求めた結果を用いています。

■対象となる都市機能

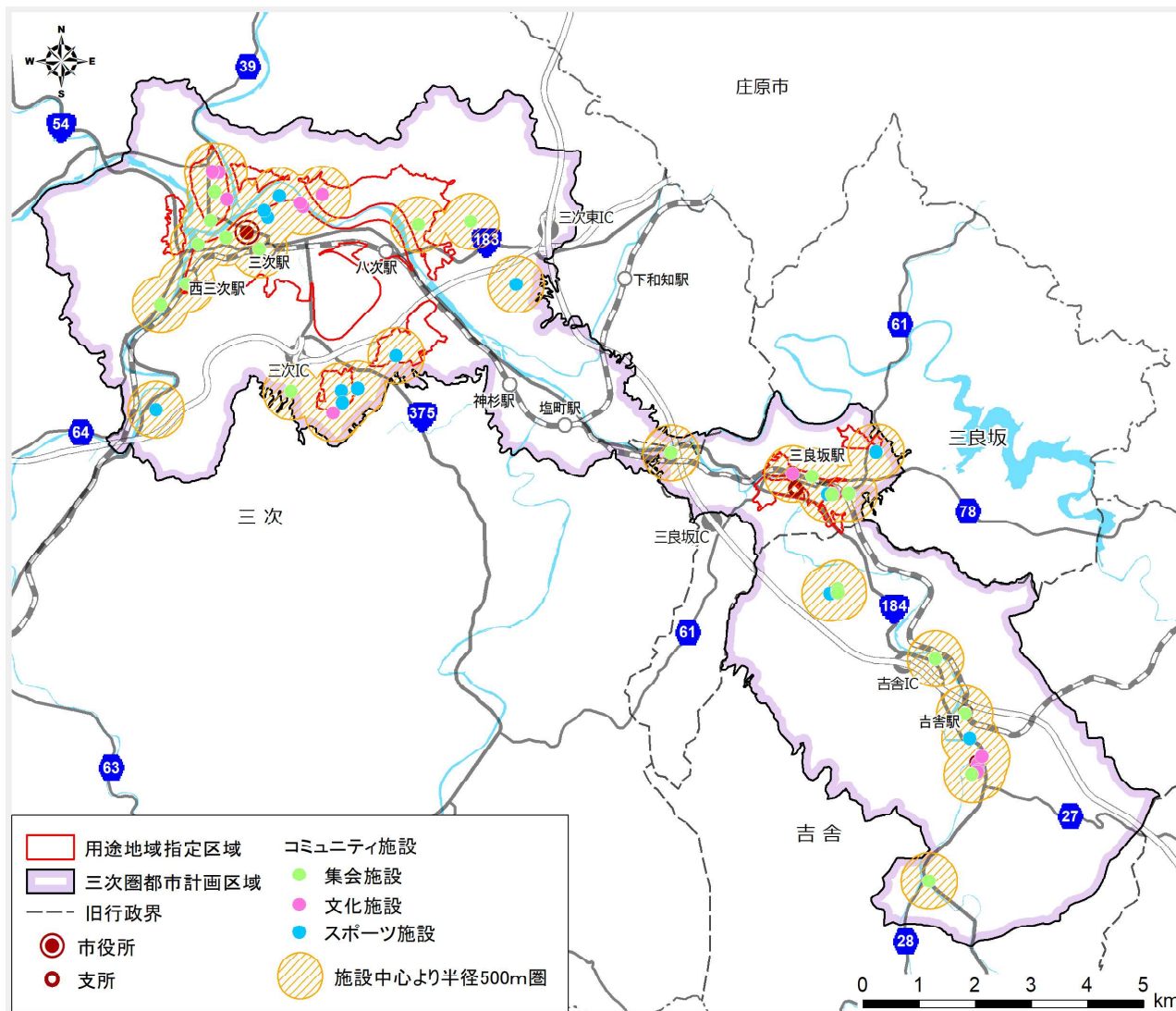
区分	施設	件数	区分	施設	件数	区分	施設	件数
コミュニティ施設 (51)	集会施設	21	子育て支援施設 (29)	幼稚園	3	商業施設 (60)	デパート・スーパー	14
	屋外運動場等	9		保育所	11		コンビニ	23
	体育館等	5		認定こども園	1		食料品店	16
	図書館	3		児童館	3		ドラッグストア等	7
	生涯学習センター	2		放課後児童クラブ	11	金融機関 (30)	銀行・その他金融機関	16
	多目的ホール	3	医療施設 (59)	病院	3		郵便局・ゆうちょ銀行	14
	交流拠点	2		医院・診療所	36	避難施設		53
	美術館等	6		歯科診療所	20			
教育施設 (14)	小学校	8	福祉施設 (43)	高齢者福祉	39	鉄道駅（半径1km圏）		7
	中学校	6		その他保健・福祉施設	4			



①コミュニティ施設

集会所や文化施設などのコミュニティ施設は、三次地域では鉄道駅からやや離れた場所に立地が多く、また、やや市街地西部に立地の傾向があり、用途地域内のカバー率は61.1%となっています。これに対して三良坂地域は駅周辺に固まって立地する傾向にあり、用途地域内のカバー率は84.1%となっています。

■コミュニティ施設の圏域人口及び人口カバー率

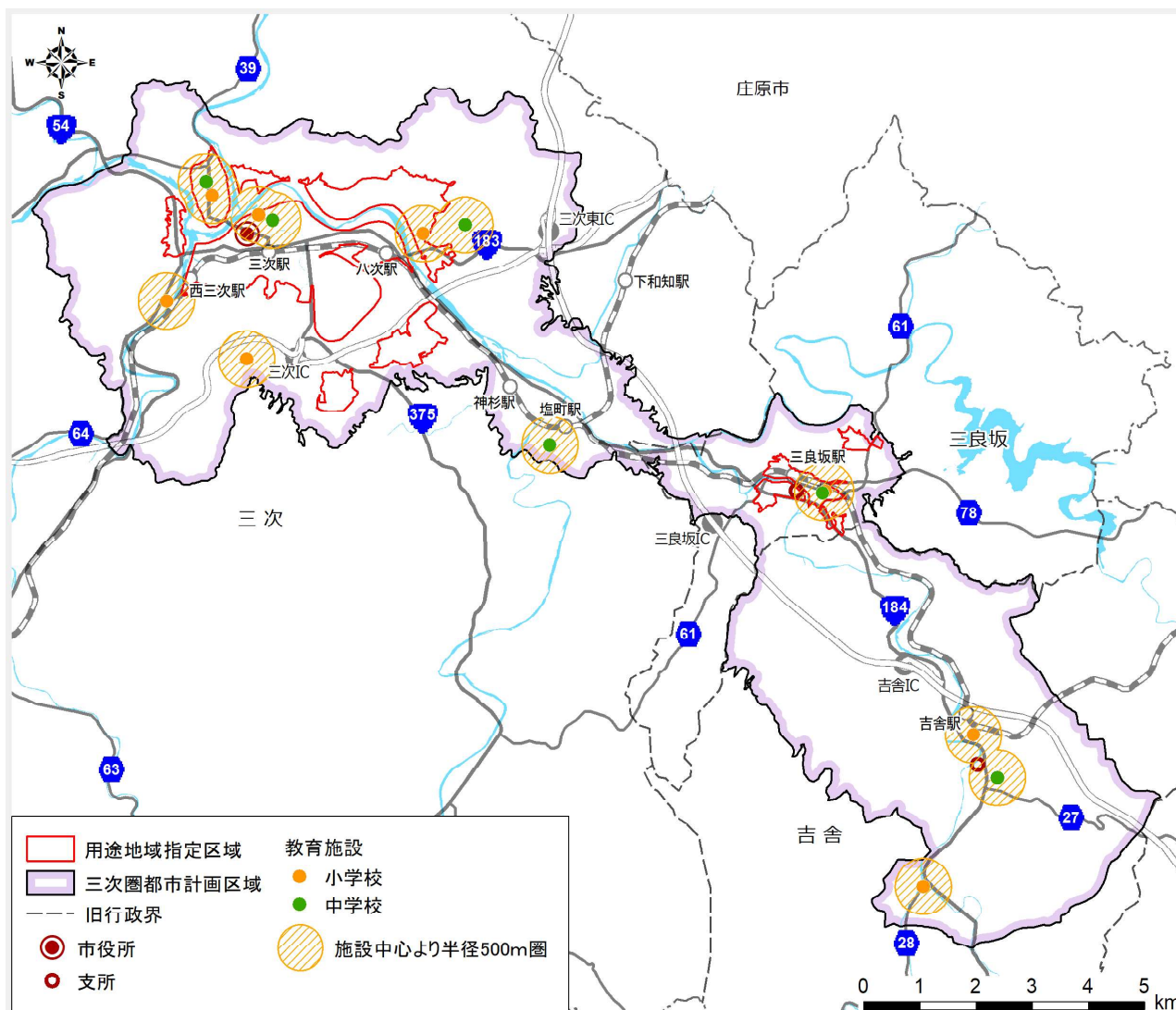


コミュニティ施設(集会所・文化施設・スポーツ施設等)	区域区分		全体人口	500m圏内人口	カバー率
	用途地域	三次地域	20,926	12,777	61.1%
		三良坂地域	943	793	84.1%
		小計	21,869	13,570	62.1%
	用途地域外	三次地域	7,172	2,584	36.0%
		三良坂地域	843	465	55.2%
		吉舎地域	2,400	1,419	59.1%
		小計	10,415	3,904	37.5%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	15,362	54.7%
		三良坂地域	1,786	1,258	70.5%
		吉舎地域	2,400	1,419	59.1%
		合計	32,284	18,039	55.9%

②教育施設

小・中学校の教育施設は、全体の施設数が 14 施設と少ないため、カバー率は少なくなっており、都市計画区域全体で 30.0%、用途地域内が 31.8%、用途地域外が 26.2%と用途地域内外の違いは小さくなっています。

■教育施設の圏域人口及び人口カバー率

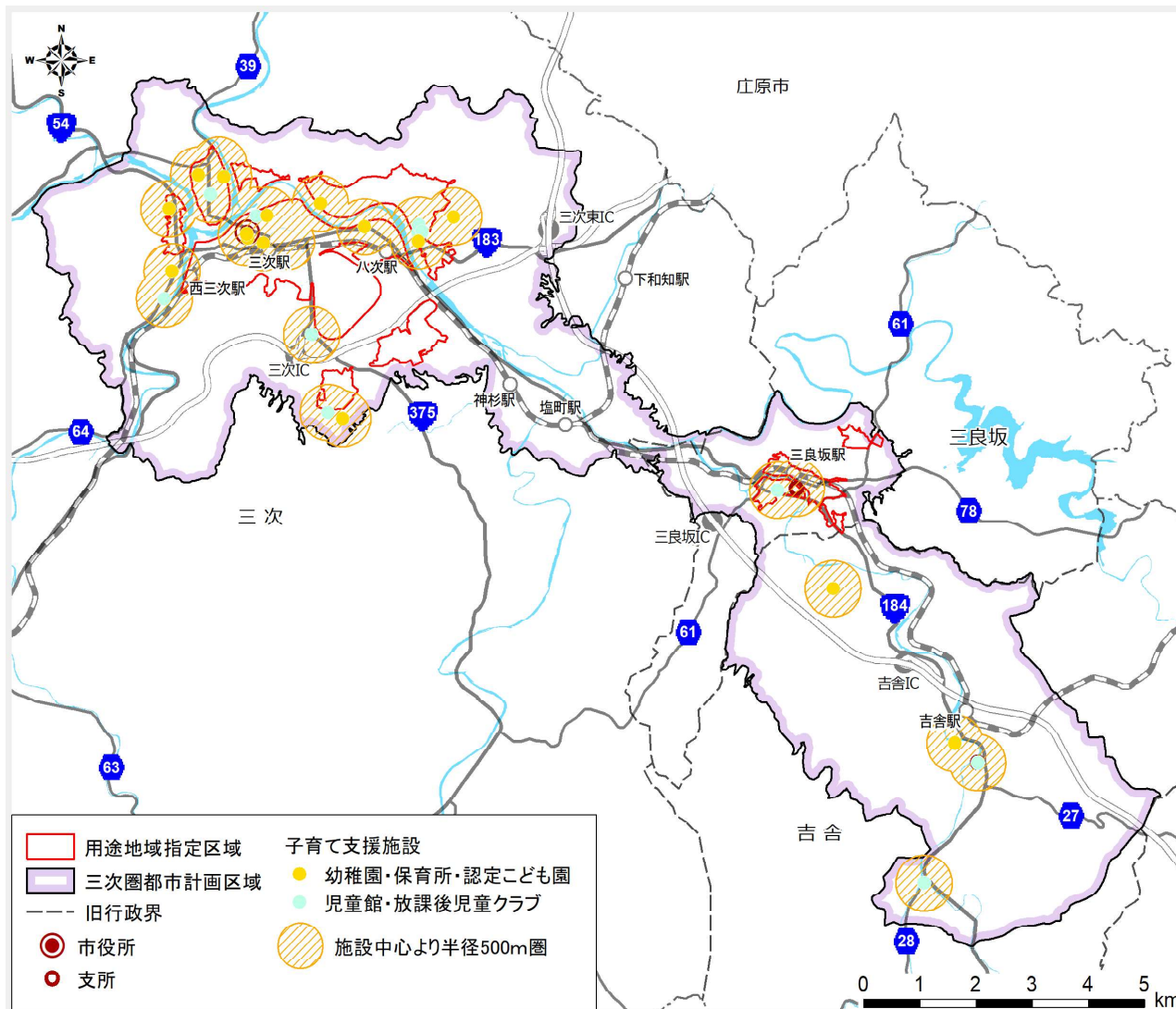


教育施設 (小学校・中学校)	区域区分		全体人口	500m圏内人口	カバー率
	用途地域	三次地域	20,926	6,537	31.2%
		三良坂地域	943	418	44.3%
		小計	21,869	6,955	31.8%
	用途地域外	三次地域	7,172	1,661	23.2%
		三良坂地域	843	125	14.9%
		吉舎地域	2,400	946	39.4%
		小計	10,415	2,732	26.2%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	8,198	29.2%
		三良坂地域	1,786	544	30.4%
		吉舎地域	2,400	946	39.4%
		合計	32,284	9,687	30.0%

③子育て支援施設

幼稚園、保育所等の子育て支援施設は、全体のカバー率が52.5%となっていますが、このうち用途地域内が61.8%、用途地域外が32.8%で用途地域内に立地が多い傾向にあります。

■子育て支援施設の圏域人口及び人口カバー率

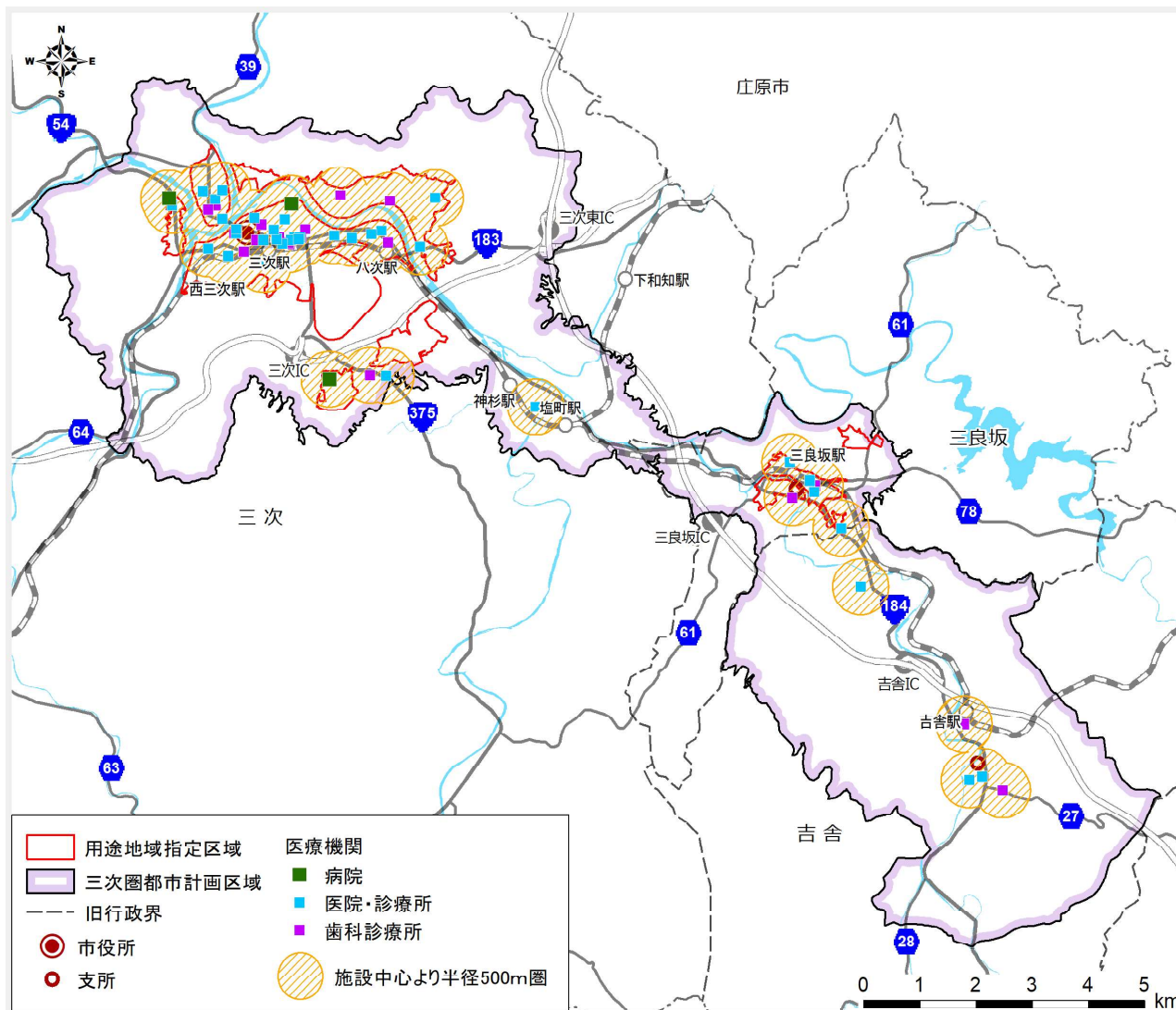


子育て支援施設(幼稚園・保育所・児童館等)	区域区分		全体人口	500m圏内人口	カバー率
	用途地域	三次地域	20,926	13,002	62.1%
		三良坂地域	943	523	55.5%
		小計	21,869	13,525	61.8%
	用途地域外	三次地域	7,172	2,272	31.7%
		三良坂地域	843	137	16.3%
		吉舎地域	2,400	1,012	42.2%
		小計	10,415	3,421	32.8%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	15,273	54.4%
		三良坂地域	1,786	660	37.0%
		吉舎地域	2,400	1,012	42.2%
		合計	32,284	16,945	52.5%

④医療機関

医療機関は、用途地域内のカバー率が91.5%と高く、用途地域外のカバー率37.9%と比較すると医療機関が用途地域内に立地する傾向が認められます。

■医療機関の圏域人口及び人口カバー率

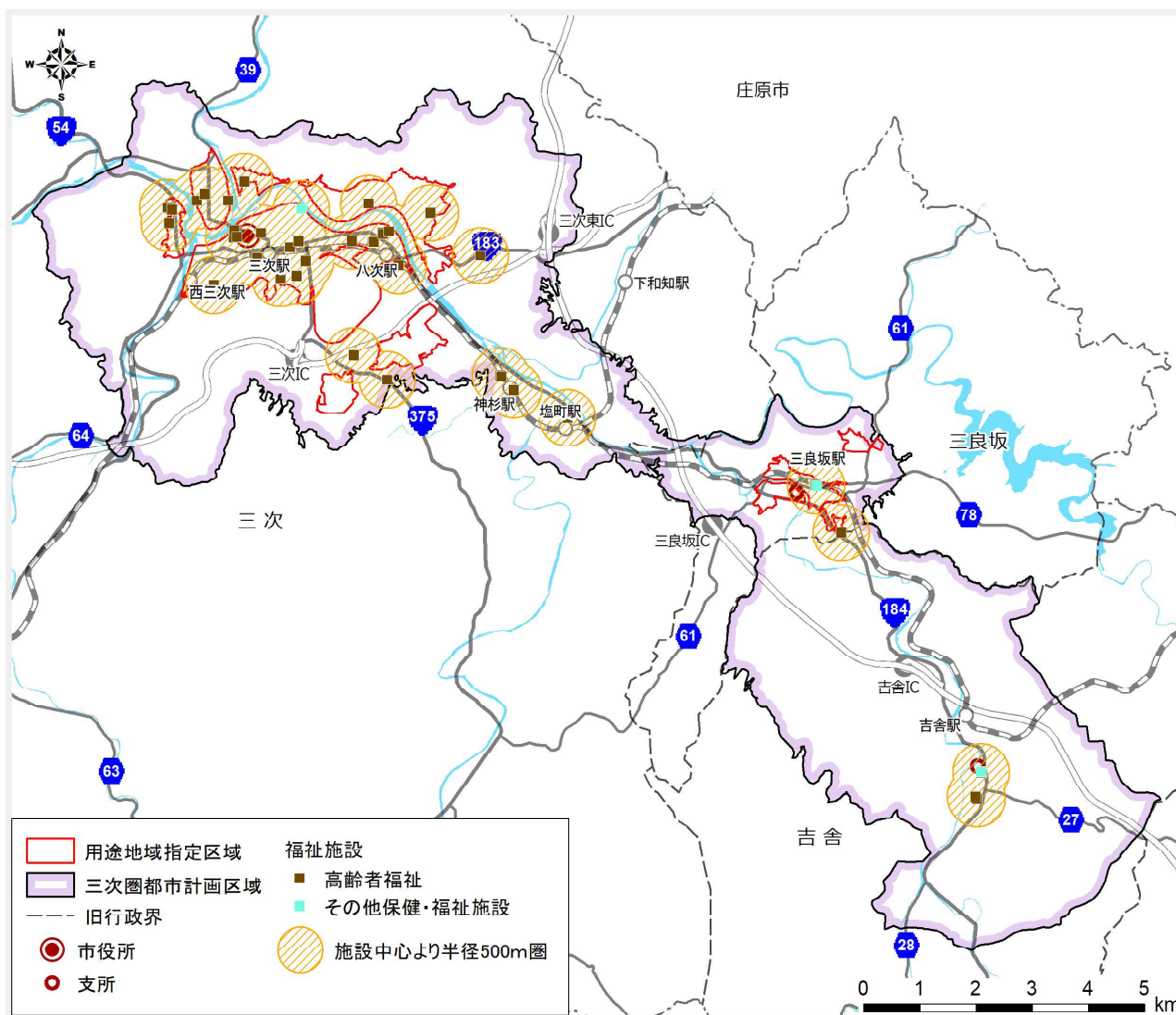


医療施設 (病院・診療所・歯科診療所)	区域区分		全体人口	500m圏内人口	カバー率
	用途地域	三次地域	20,926	19,158	91.6%
		三良坂地域	943	844	89.5%
		小計	21,869	20,002	91.5%
	用途地域外	三次地域	7,172	2,386	33.3%
		三良坂地域	843	269	31.9%
		吉舎地域	2,400	1,292	53.8%
		小計	10,415	3,948	37.9%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	21,544	76.7%
		三良坂地域	1,786	1,113	62.3%
		吉舎地域	2,400	1,292	53.8%
		合計	32,284	23,950	74.2%

⑤高齢者福祉施設等

高齢者福祉施設は、三次地域の用途地域内のカバー率が83.6%と高く、他の地域とは大きな差が見られます。

■高齢者福祉施設等の圏域人口及び人口カバー率



福祉施設 (高齢者福祉施設・その他福祉施設)	区域区分		全体人口	500m圏内人口	カバー率
	用途地域	三次地域	20,926	17,493	83.6%
		三良坂地域	943	466	49.4%
		小計	21,869	17,959	82.1%
	用途地域外	三次地域	7,172	2,879	40.1%
		三良坂地域	843	115	13.6%
		吉舎地域	2,400	898	37.4%
		小計	10,415	3,892	37.4%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	20,371	72.5%
		三良坂地域	1,786	580	32.5%
		吉舎地域	2,400	898	37.4%
合計		32,284	21,850	67.7%	

スーパーマーケットやコンビニエンスストア、その他の食料品店などの商業施設は、用途地域内のカバー率が 87.3%と高く、用途地域外の 40.0%と大きな開きがあります。

庄原市

三次

三良坂

吉舎

三次東IC

下和知駅

三良坂C

三良坂駅

三良坂

古舎IC

古舎駅

古舎

三次IC

三次駅

八次駅

西三次駅

神杉駅

塩町駅

用途地域指定区域

三次圏都市計画区域

旧行政界

市役所

支所

商業施設

デパート・スーパー

コンビニ

食料品店

ディスカウント・ドラッグストア

施設中心より半径500m圏

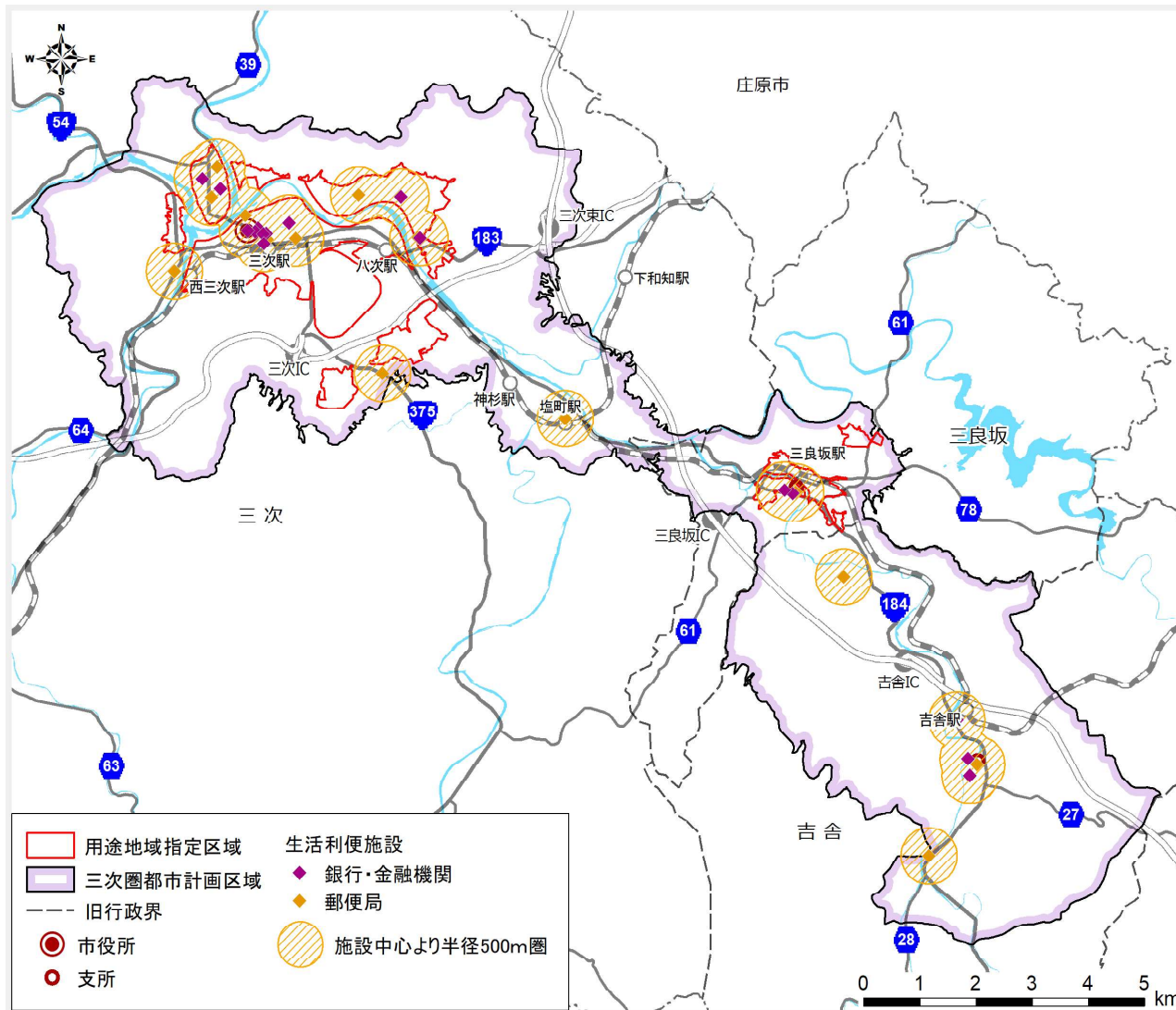
0 1 2 3 4 5 km

商業施設 (スーパー・ コンビニエ ンスストア・ 食料品店・ その他)	区域区分		全体人口	500m圏内人口	カバー率
	用途地域	三次地域	20,926	18,338	87.6%
		三良坂地域	943	750	79.5%
		小計	21,869	19,088	87.3%
	用途地域外	三次地域	7,172	2,611	36.4%
		三良坂地域	843	273	32.3%
		吉舎地域	2,400	1,279	53.3%
		小計	10,415	4,163	40.0%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	20,949	74.6%
		三良坂地域	1,786	1,022	57.3%
吉舎地域		2,400	1,279	53.3%	
合計		32,284	23,251	72.0%	

⑦金融機関

銀行や郵便局などの金融機関は、用途地域内が 65.1%、用途地域外が 29.8%であり、金融機関が用途地域内に立地が多い傾向が認められます。

■金融機関の圏域人口及び人口カバー率

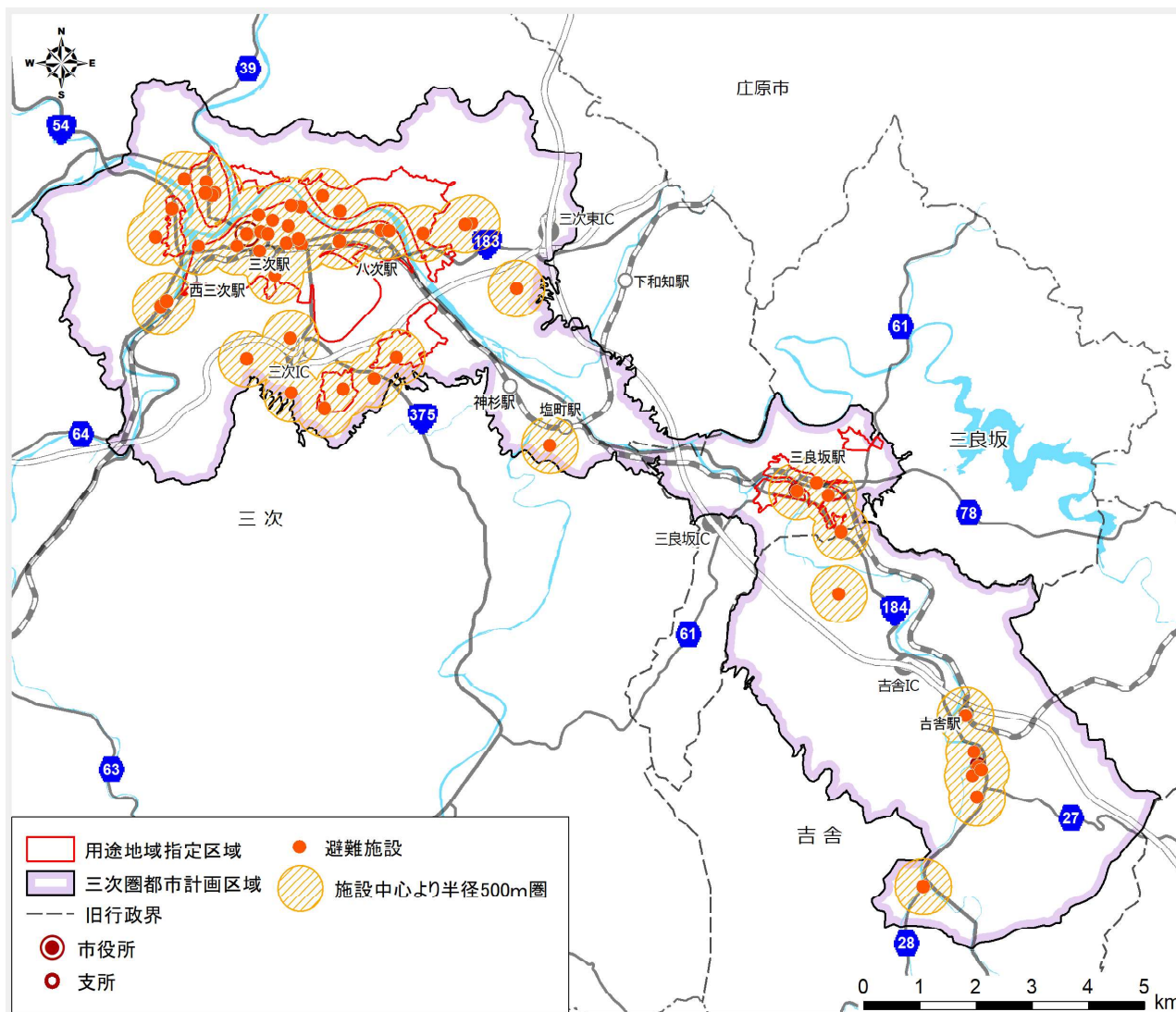


生活利便施設(金融機関・郵便局)	区域区分		全体人口	500m圏内人口	カバー率
	用途地域	三次地域	20,926	13,531	64.7%
		三良坂地域	943	712	75.5%
		小計	21,869	14,243	65.1%
	用途地域外	三次地域	7,172	1,705	23.8%
		三良坂地域	843	182	21.5%
		吉舎地域	2,400	1,215	50.6%
		小計	10,415	3,102	29.8%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	15,236	54.2%
		三良坂地域	1,786	894	50.0%
		吉舎地域	2,400	1,215	50.6%
		合計	32,284	17,345	53.7%

⑧避難施設

避難施設は、用途地域内のカバー率が79.2%、用途地域外が49.6%となっています。
 なお、都市計画区域全体のカバー率は69.6%です。

■避難施設の圏域人口及び人口カバー率

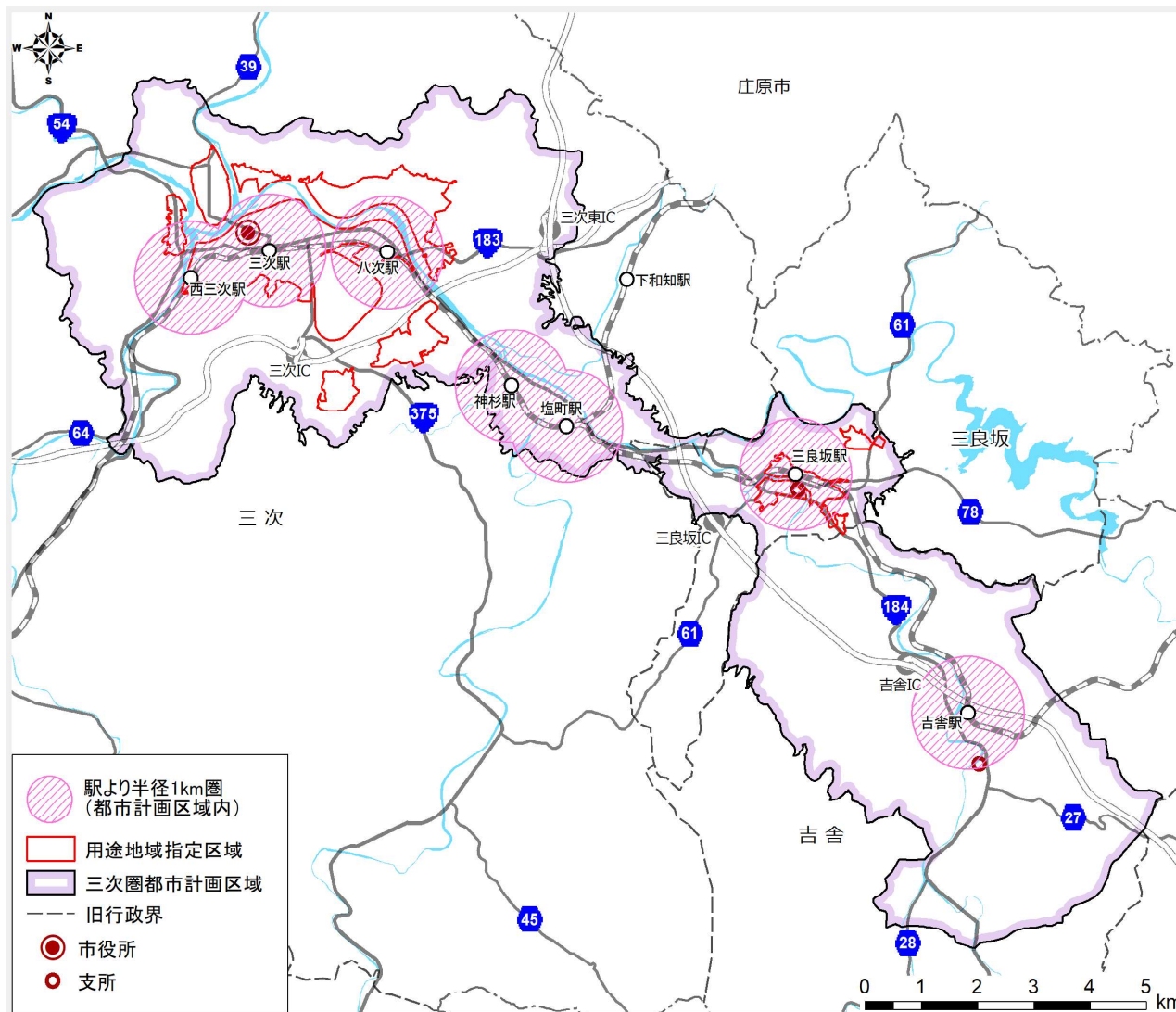


	区域区分		全体人口	500m圏内人口	カバー率
	用途地域				
避難施設	用途地域	三次地域	20,926	16,585	79.3%
		三良坂地域	943	732	77.6%
		小計	21,869	17,317	79.2%
	用途地域外	三次地域	7,172	3,520	49.1%
		三良坂地域	843	256	30.4%
		吉舎地域	2,400	1,389	57.8%
		小計	10,415	5,164	49.6%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	20,105	71.6%
		三良坂地域	1,786	988	55.3%
		吉舎地域	2,400	1,389	57.8%
		合計	32,284	22,481	69.6%

⑨鉄道駅

都市計画区域内に位置する7駅の1km圏のカバー率は全体で54.1%であり、このうち用途地域内66.1%、用途地域外28.9%となっています。

■鉄道駅の圏域人口及び人口カバー率



鉄道駅	区域区分		全体人口	1km圏内人口	カバー率
	用途地域	三次地域	20,926	13,589	64.9%
		三良坂地域	943	873	92.6%
		小計	21,869	14,462	66.1%
	用途地域外	三次地域	7,172	2,111	29.4%
		三良坂地域	843	330	39.1%
		吉舎地域	2,400	565	23.6%
		小計	10,415	3,006	28.9%
	都市計画区域計	三次地域	28,098	15,700	55.9%
		三良坂地域	1,786	1,202	67.3%
		吉舎地域	2,400	565	23.6%
		合計	32,284	17,468	54.1%

5 防災の状況

(1) 災害の履歴

本市では昭和 47(1972)年 7 月の豪雨により、馬洗川堤防が破堤し多くの人命が奪われたことをはじめ、市街地の大半が床上・床下浸水し、家屋の損壊も 2,000 棟にのぼるなど大災害となりました。このときの総雨量は 430mm に達していました。

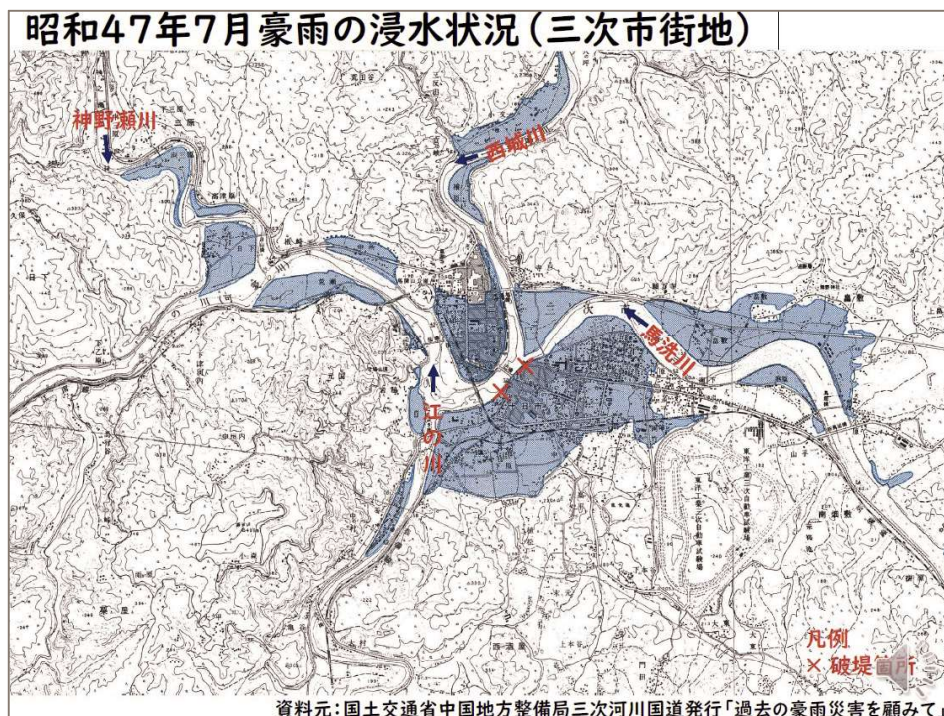
その後、河川改修や排水機場の整備が進んだ結果、令和 3 (2021)年 8 月には、総雨量 438mm に達する大雨が発生しましたが、床上、床下の浸水が計 24 棟にとどまり、人的被害は発生しませんでした。

しかし近年、国内では想定を越える豪雨が頻発しており、本市においてもこのような災害に対する備えが従来に増して必要となっています。

三次市の災害履歴

年月日	総雨量 (mm)	時間最大雨量 (mm/h)	観測地点	被害						
				人的被害(人)		家屋被害(棟)			道路その他の被害(件)	
				死者・行方不明	負傷者	全壊・半壊・一部損壊	床上浸水	床下浸水	道路・農地等	土砂災害その他
1972/7/10 ～7/12	430.5	42.0	馬洗川三次観測所	10	42	1,914	2,540	2,365	—	—
2018/7/6 ～7/7	365.0	36.0	三次観測所(気象台)	0	0	10	167	311	2,095	左記に含む
2020/7/13 ～7/14	210.5	26.5	君田	0	0	2	5	56	718	44
2021/8/13 ～8/15	438.0	49.0	板木(国)	0	0	—	5	19	269	2

資料：庁内資料

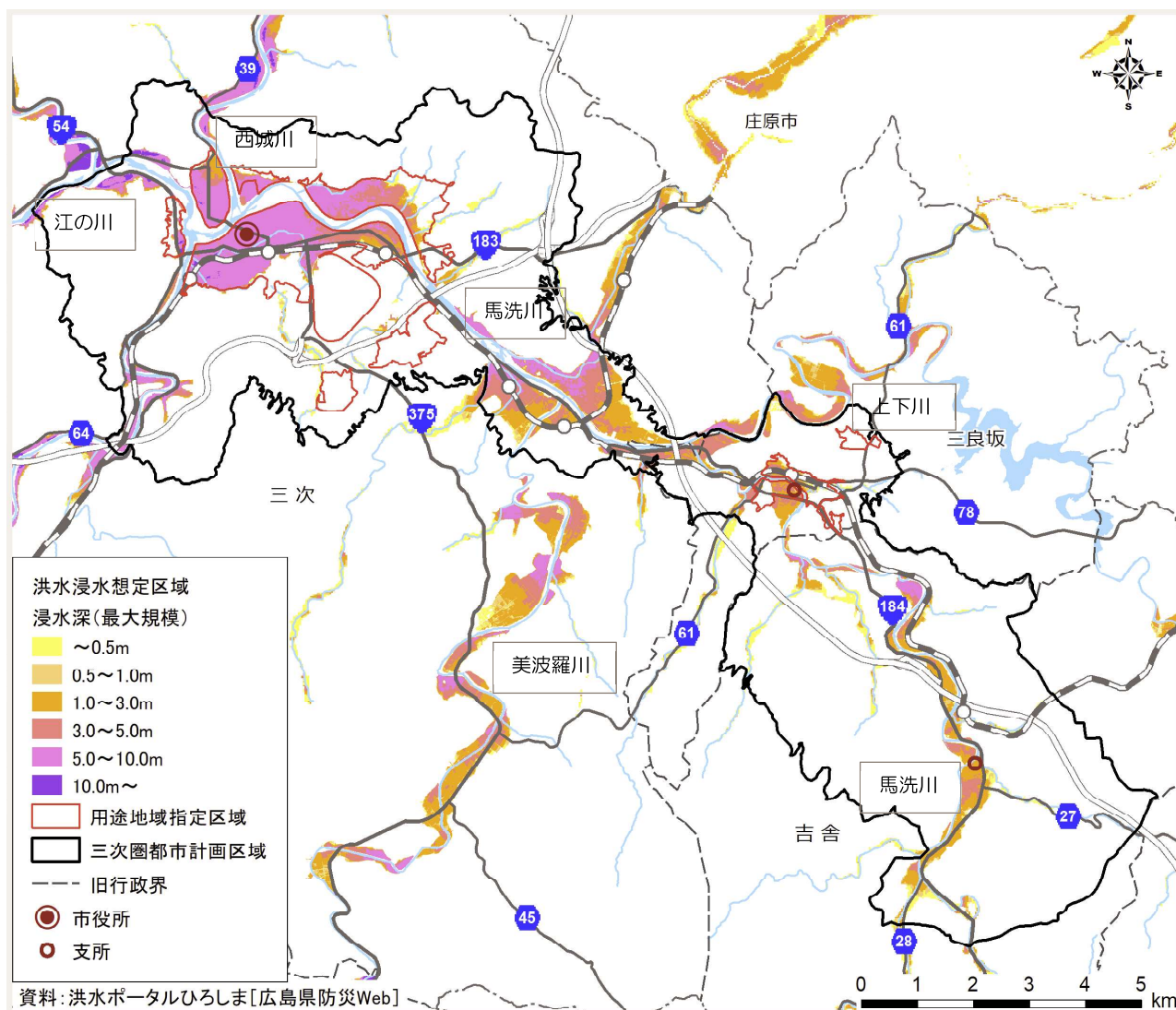


資料：昭和 47 年 7 月豪雨災害の記憶

(2) 洪水浸水想定区域（都市計画区域）

①洪水浸水想定区域（想定最大規模）

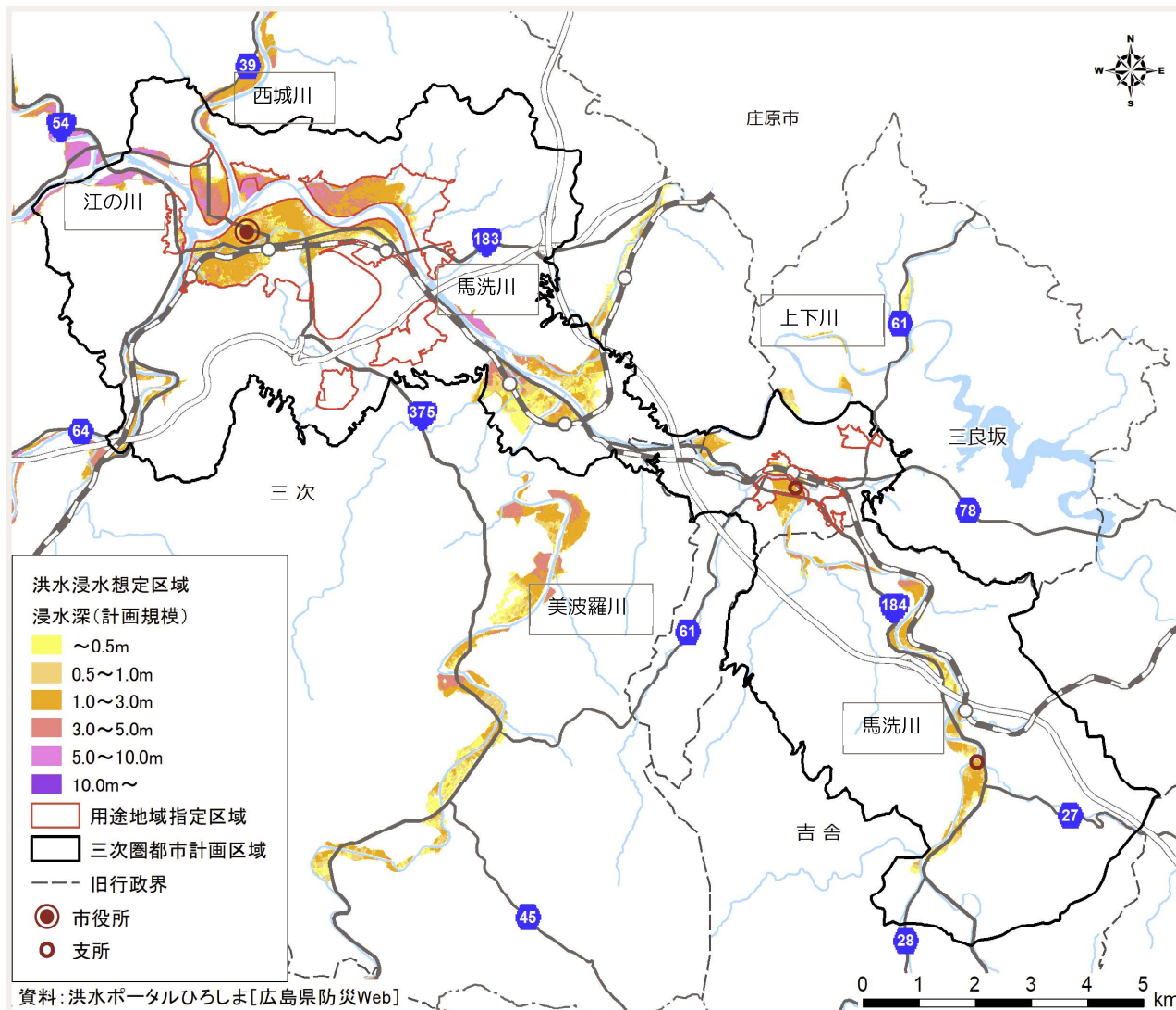
想定最大規模による洪水浸水想定区域では、ＪＲ芸備線以北の十日市、三次町、南畑敷町など広い範囲に5.0～10.0mの浸水が想定されています。このほかにも、塩町周辺、吉舎駅の間部、美波羅川の各地で5.0～10.0mの浸水が想定されています。



浸水想定区域（想定最大規模）：想定し得る最大規模の降雨（年超過確率 1/1000）により河川が氾濫した場合の「想定最大規模」で広島県が作成

②洪水浸水想定区域（計画規模）

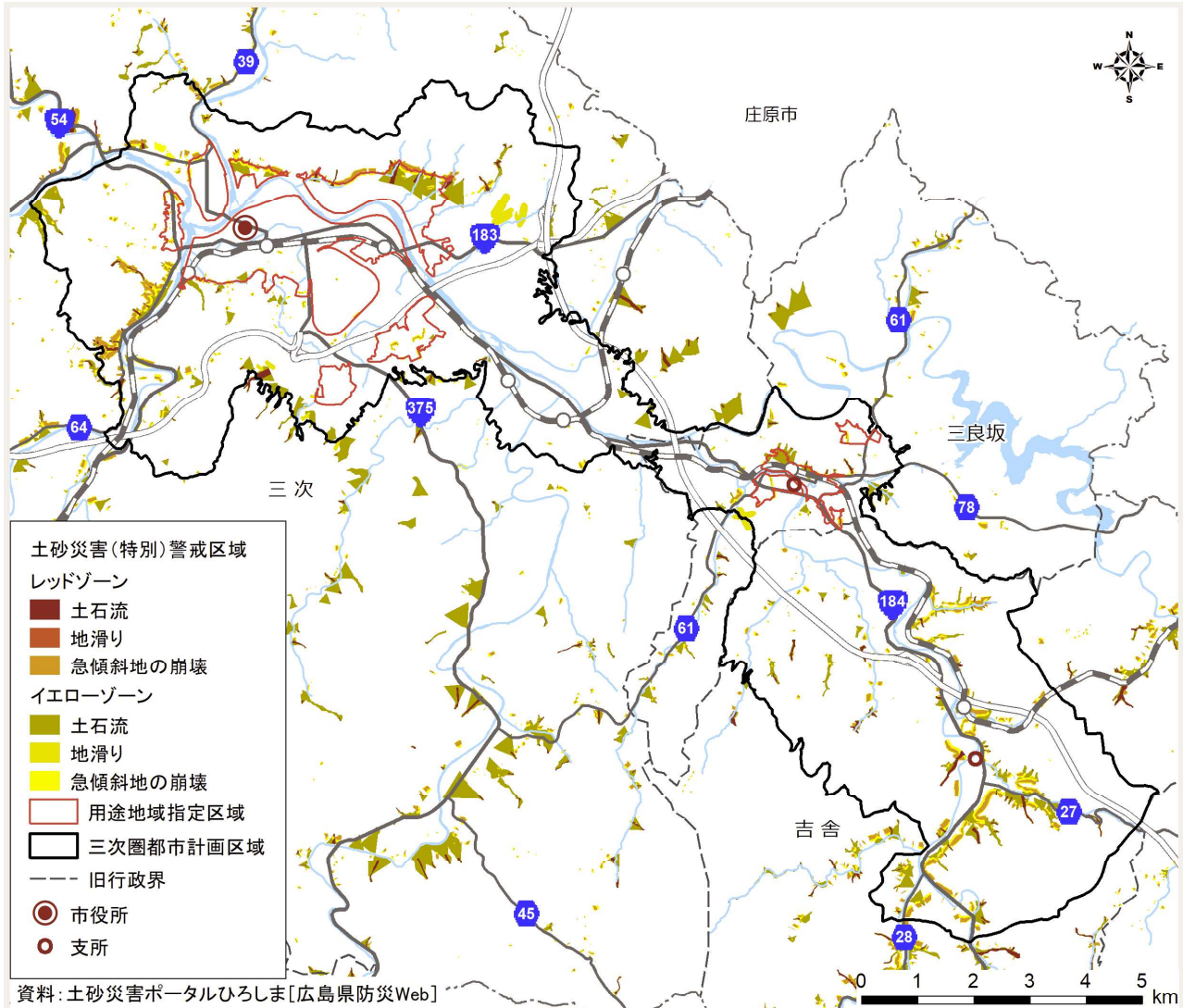
計画規模による洪水浸水想定区域は、江の川、馬洗川、西城川の合流部周辺の市街地部分において浸水深 3.0～5.0mに達する区域が拡がるとともに、一部で浸水深 5.0～10.0m に達すると想定されています。また、馬洗川や美波羅川においても浸水深 3.0～5.0mの区域が数多く分布しています。



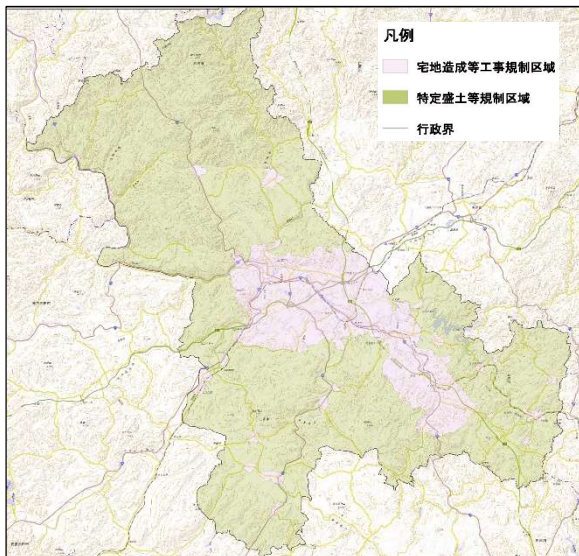
浸水想定区域（計画規模）：河川整備の基準とする降雨（年超過確率 1/30～1/100）により河川が氾濫した場合の「計画規模」で広島県が作成

(3) 土砂災害（都市計画区域）

本市は、中国山地の山々に囲まれた限られた平地部に市街地が形成されるという地形的な特徴から、市街地の周辺（平地部の周辺）に急傾斜地崩壊、土石流、地滑りによる土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）が帯状に連なって指定されています。なお、県が指定する宅地造成工事規制区域は、都市計画区域や旧町村の中心部等を対象に指定されています。



(参考) 宅地造成工事規制区域及び特定盛土等規制区域

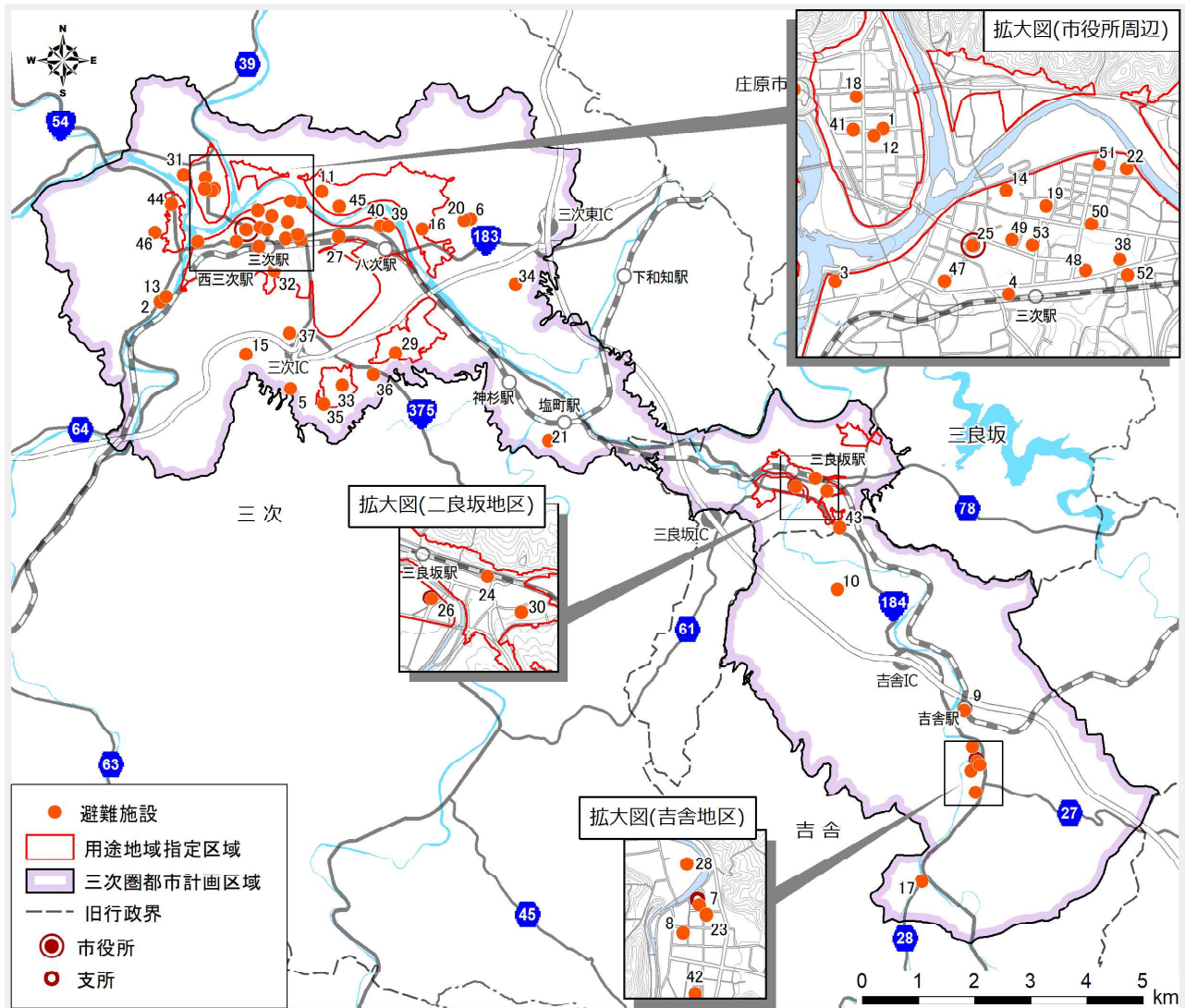


(宅地造成工事規制区域)

宅地造成に伴い災害の発生の恐れが高い区域を対象として指定されるもので、当該区域に宅地造成は禁止されていないが、安全性確保に向けた技術基準に沿うよう、届出の義務や勧告助言が行われる

(4) 避難所の分布（都市計画区域）

都市計画区域内では、小中学校、コミュニティセンター、福祉施設、文化施設等を対象に、現在 53 箇所の避難施設が設けられています。



■避難施設

番号	名 称	番号	名 称	番号	名 称	番号	名 称
1	三次コミュニティセンター	15	酒河小学校	29	酒屋体育館	43	特別養護老人ホームこじか荘
2	栗屋コミュニティセンター	16	八次小学校	30	三良坂体育館	44	特別養護老人ホームくるみ荘
3	みよしまちづくりセンター	17	八幡小学校	31	尾関山公園	45	ゆうしゃいん三次
4	十日市コミュニティセンター	18	三次中学校	32	若宮公園	46	子鹿医療療育センター
5	酒屋コミュニティセンター	19	十日市中学校	33	みよし運動公園	47	三次プラザパーキング
6	八次コミュニティセンター	20	八次中学校	34	県立みよし公園	48	サングリーン
7	よっしゃ吉舎	21	塩町中学校	35	広島三次ワイナリー	49	ケアホームディア・レスト三次
8	吉舎コミュニティセンター	22	三次市福祉保健センター	36	ナフコ三次店駐車場	50	三次農協会館 本館
9	中四字コミュニティセンター	23	吉舎保健センター	37	ダイナム三次店駐車場	51	三次地区医療センター
10	敷地コミュニティセンター	24	みらさか福祉センター	38	第2迦葉	52	ピクラー・三次グランド 特別立体駐車場
11	三次市民ホール きりり	25	三次市役所	39	特別養護老人ホームみよしの	53	備北地区消防本部、三次消防署
12	三次小学校	26	三次市三良坂支所	40	水明園		
13	栗屋小学校	27	県立三次高等学校	41	特別養護老人ホームすいれん		
14	十日市小学校	28	県立日影館高等学校	42	ケアハウス吉舎		

資料：〔三次市HP〕三次市防災ハザードマップ 指定緊急避難場所・指定避難所等一覧、三次市福祉避難所、浸水時緊急退避施設（R5）

6 経済・財政・地価の状況

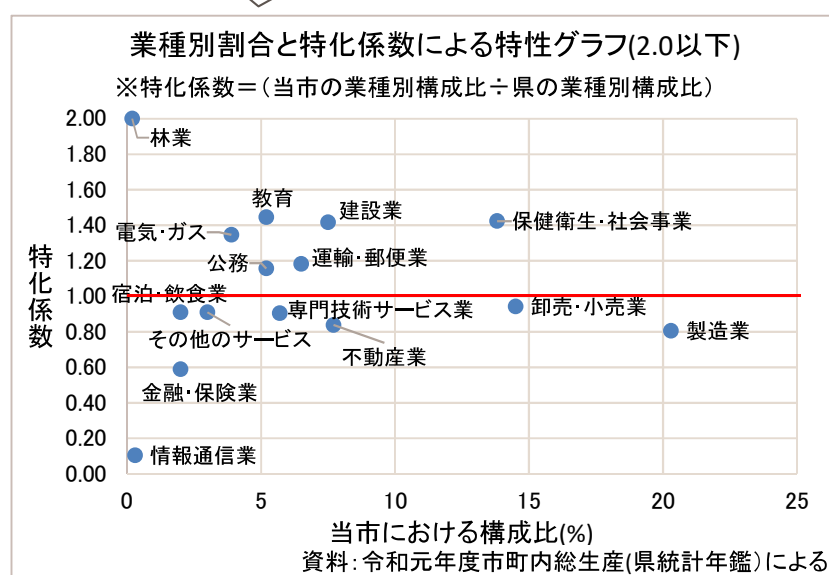
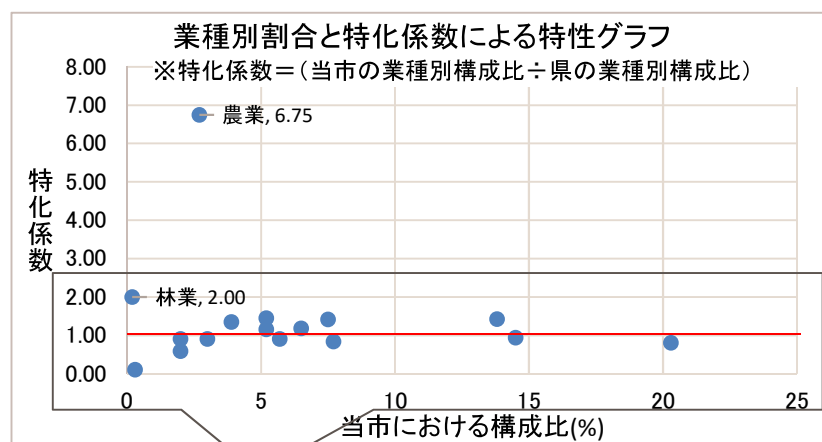
(1) 産業の状況

①本市の産業の特性

県下の市町内業種別総生産額に基づき、県の業種ごとの構成比と本市の構成比の比較による特化係数を求め、これと本市の業種別構成比により作成したグラフにより、本市の業種ごとの特性を把握します。

業種別構成比をみると、本市では、製造業、卸小売業、保健衛生社会事業の生産額割合が10%を越え、5～10%に不動産業、建設業、運輸郵便業、専門技術サービス業、教育、公務の各業種が含まれ、これらが本市の主たる業種とみることができます。

次に特化係数をみると、農業が6.75と突出して高い値となっているほか林業も2.0を越えています。これらの業種は生産額としては構成比は5.0未満ですが、県の平均と比較すると農林業が本市の中で特色ある業種となっていることが示されています。このほか、県の平均を上回る業種（特化係数1.0以上）は、保健衛生社会事業、建設業、運輸郵便業、教育、公務、及び電気・ガスなど建設業を除いては公益性が高い業種の特化係数が高く、県平均よりも業種の集積が高いとみることができます。反対に特化係数が低い業種は、情報通信業、金融保険業となっています。



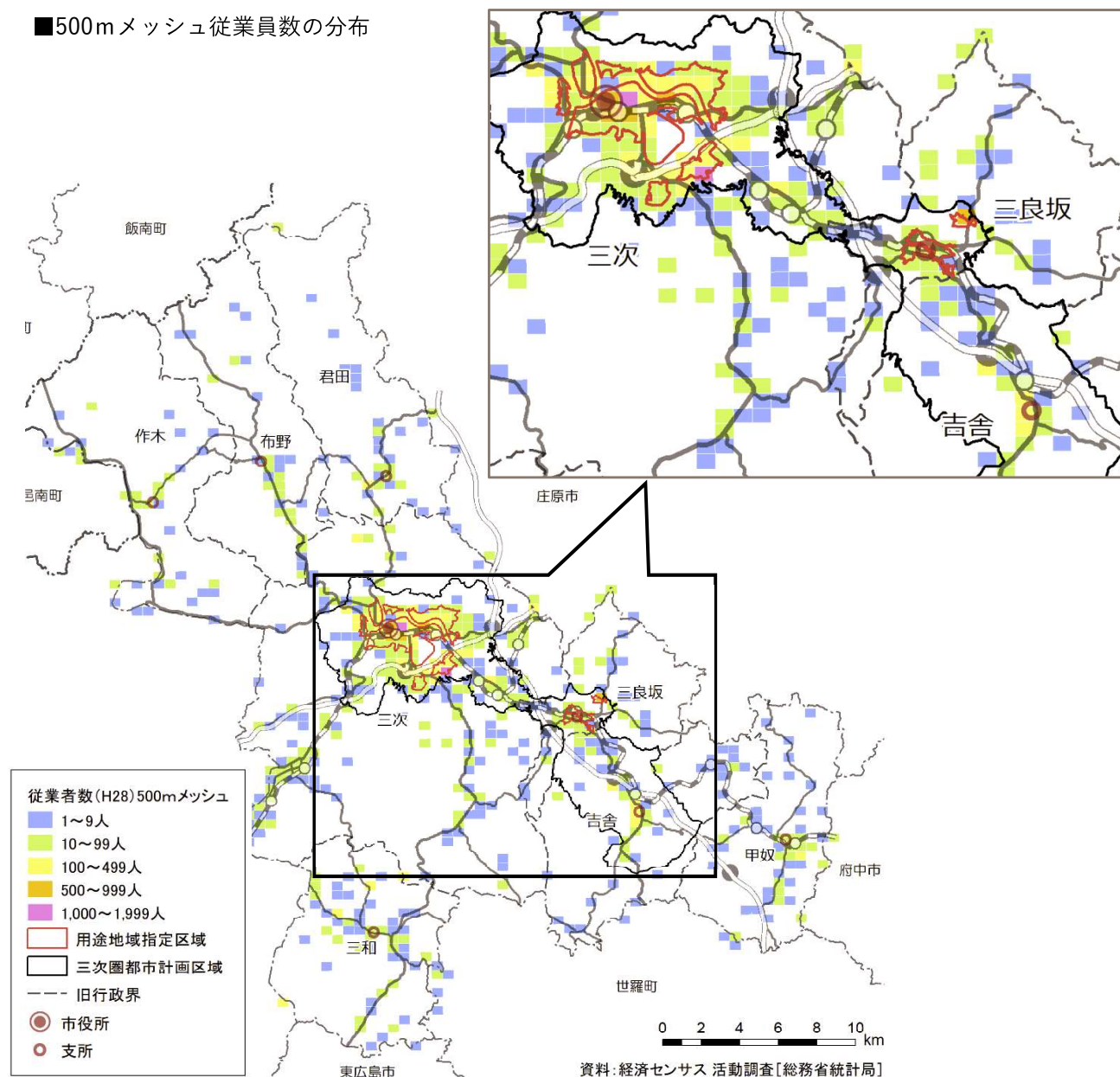
②従業者の分布

平成 28(2016)年の経済センサスによる 500mメッシュごとの従業員数の分布は下図のようになっています。これによると、従業員数が1,000 人を超えるメッシュは、三次駅前北側の三次工業団地の2メッシュが該当します。また、三次駅周辺では、駅を取り囲むように500 人～999 人のメッシュが分布しており、駅周辺がまとまった雇用場の役割を果たしていることが示されています。

また、平成 24(2012)年から平成 28(2016)年にかけて従業員数の増減について増加数が多いのは、全産業では南畑敷町、東酒屋町、栗屋町、畠敷町、十日市西六丁目が上位となっており、傾向として市街地が東部、南部に広がる傾向が見られます。

	公務を除く全産業	E 製造業	H 運輸業, 郵便業	I 卸売業, 小売業	P 医療, 福祉
一位	南畑敷町	三良坂町皆瀬	東酒屋町	三次町	栗屋町
二位	東酒屋町	南畑敷町	南畑敷町	三和町下板木	十日市東三丁目
三位	栗屋町	吉舎町矢井	畠敷町	畠敷町	甲奴町本郷
四位	畠敷町	三良坂町灰塚	栗屋町	栗屋町	南畑敷町
五位	十日市西六丁目	東酒屋町	江田川之内町	十日市南一丁目	三和町下板木

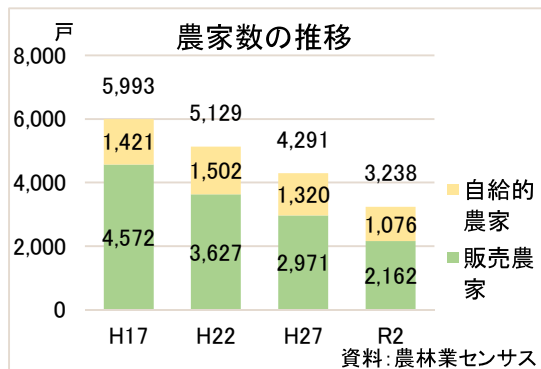
■500mメッシュ従業員数の分布



③農業

令和2(2020)年の農家数は、3,238 戸で、うち販売農家が2,162 戸、自給的農家が1,076 戸となっています。

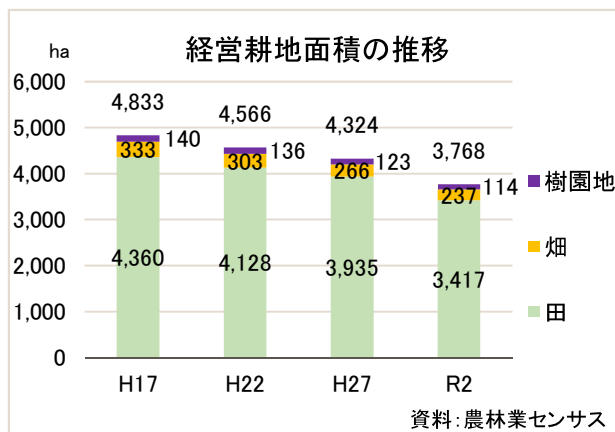
平成17(2005)年からの推移を見ると、総農家数は2,755 戸減少し、そのうち販売農家は、半数以下まで減少しています。



令和2(2020)年の経営耕地面積は、3,768ha でうち田が3,417ha と9割を占めています。

経営耕地面積合計は、平成17(2005)年の4,833ha から約1,000ha が減少しましたが、このうち田が943ha 減少と、減少分の大半が田の減少によるものとなっています。

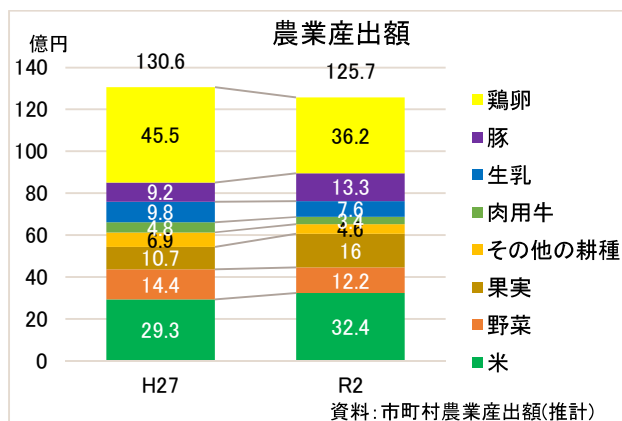
畑、樹園地はともに減少傾向にありますが、田に比較すると減少幅は緩やかとなっています。



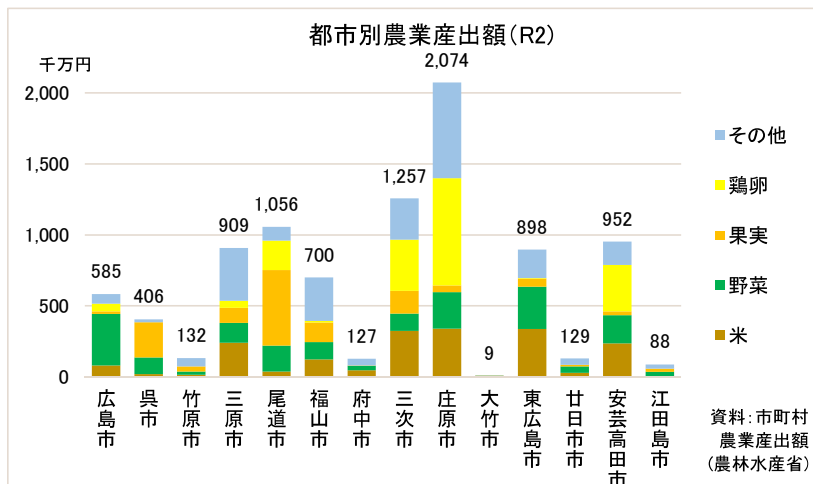
令和2(2020)年の農業産出額は125.7 億円で5年前から早くも約5億円が減少しました。

内訳では鶏卵が36.2 億円で最も多く、次いで米が32.4 億円、果実16 億円、豚13.3 億円、野菜12.2 億円などが続いています。

県下都市部の農業産出額を比較すると、本市は庄原市に次いで第2位の産出額となっており、米の産出額では庄原市と並ぶ金額となっています。また鶏卵についても庄原市に次ぐ算出を示しています。



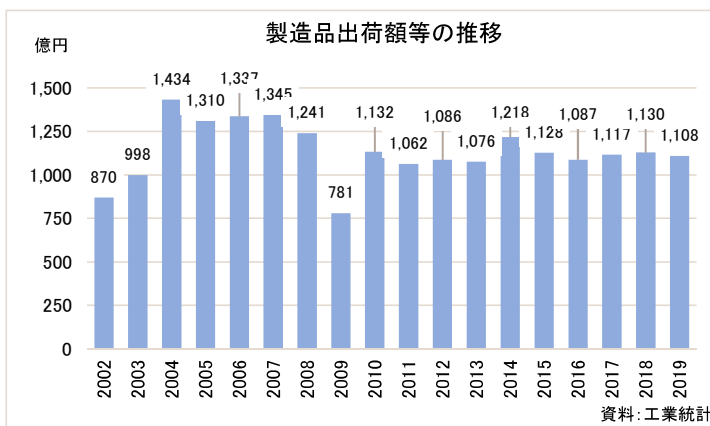
農業の特化係数が高い根拠として、このような農業生産の実績が示していると考えられます。



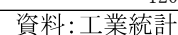
本市の市街地南部の東酒屋町と南畑敷町にまたがる地区に造成した三次工業団地では、高速道路インターチェンジの近傍という好条件もあって順調な企業進出が進み、各種製造業をはじめ運輸倉庫業その他の 45 企業が立地しています。

業種別に従業員数（出荷額は秘匿数値の業種が多いため従業員数とした）を見ると、「電子部品・電子回路」が従業員数 742 人で最も多い業種となっています。これに次いで「非鉄金属」556 人、「輸送用機械器具」517 人が続いています。

今後、高速自動車道が交差するという立地条件を活かした工場等の立地により、工場の進出が進み、新たな雇用の受け皿となっていくことが期待されます。



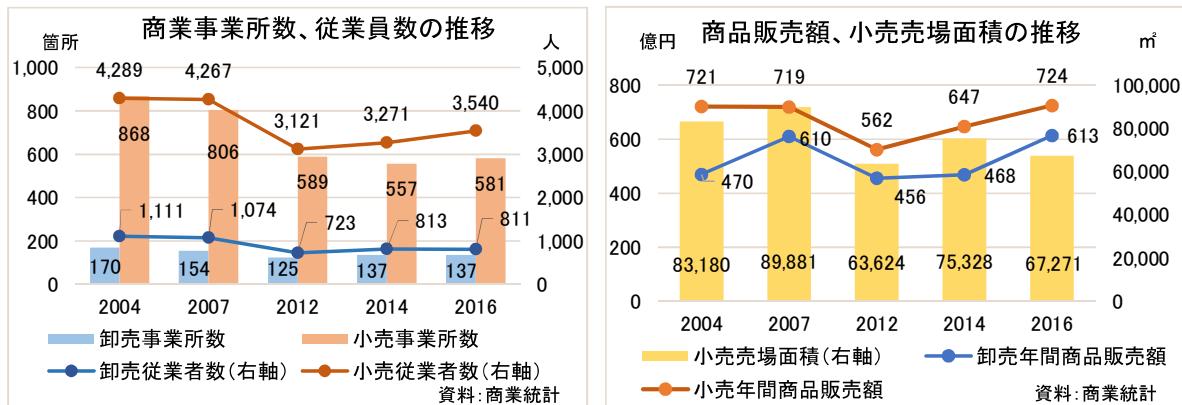
	事業所 数	従業員 数(人)	出荷額 (億円)	従業員数グラフ(人)
食料品	15	336	70.5	336
飲料・たばこ・飼料	5	133	16.7	133
繊維工業	2	258	X	258
木材・木製品	2	33	X	33
家具・装備品	4	55	4.0	55
印刷・同関連業	3	54	6.0	54
化学工業	2	76	X	76
石油製品・石炭製品	2	24	X	24
プラスチック製品	2	199	X	199
窯業・土石製品	8	134	18.3	134
鉄鋼業	3	75	16.4	75
非鉄金属	2	556	X	556
金属製品	8	336	105.0	336
はん用機械器具	3	28	2.4	28
生産用機械器具	4	89	11.2	89
業務用機械器具	2	216	X	216
電子部品・電子回路	4	742	273.5	742
電気機械器具	1	23	X	23
輸送用機械器具	7	517	226.7	517
その他	2	120	X	120



⑤商業

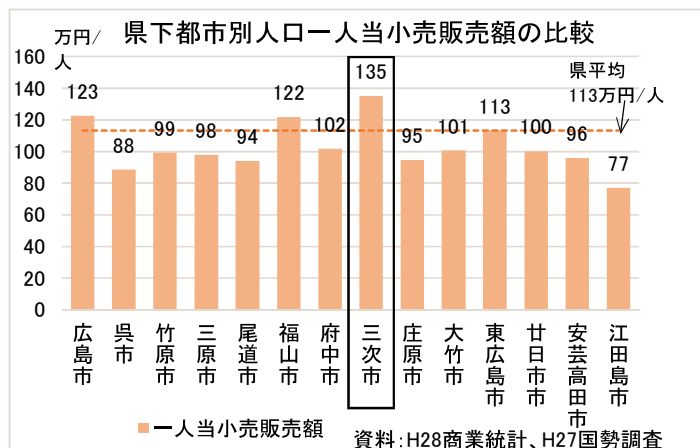
平成 28(2016)年における本市の商業は、事業所数が卸売 137 箇所、小売が 581 箇所の合計 718 箇所、従業員数が卸売 811 人、小売が 3,540 人の合計 4,351 人、また、商品販売額は卸売 613 億円、小売 724 億円で合計 1,337 億円となっています。

平成 16(2004)年からの推移を見ると、卸売、小売とも平成 24(2012)年にリーマンショックなどの影響からいったん落ち込みましたが、それ以降は上昇に転じ、特に商品販売額は平成 16(2004)年の水準を超えるまで回復しています。



小売販売額について人口一人当の販売額を求めて他都市と比較すると、本市は 135 万円/人で県平均 113 万円/人を上回るとともに、都市部（13 都市）の中で最も高い値となっています。

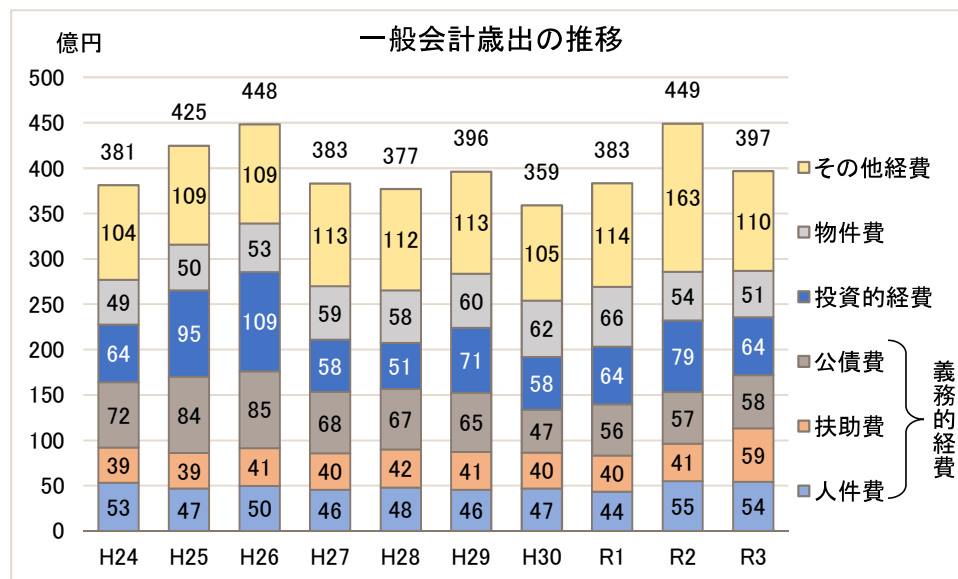
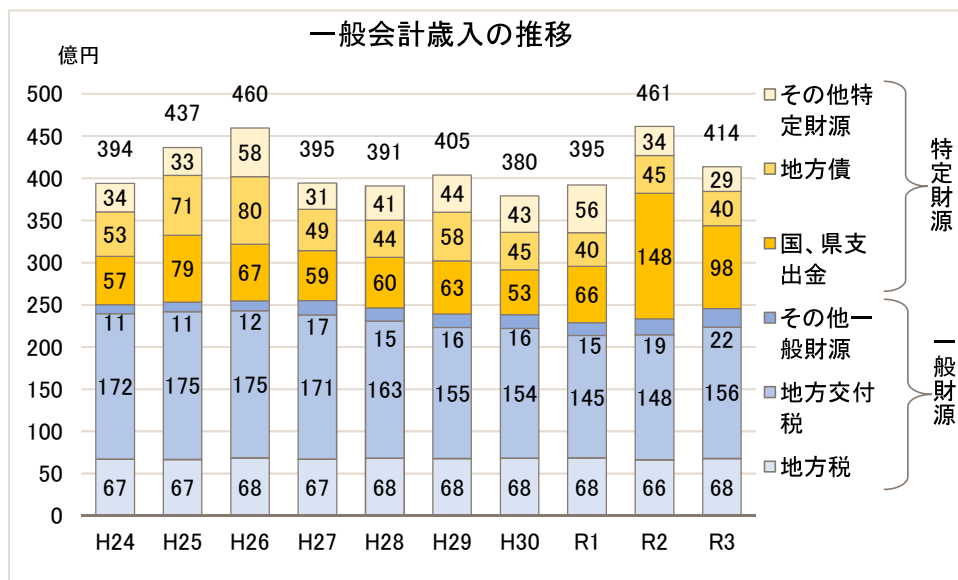
一人当小売販売額の業種別内訳を見ると「飲食料品」、「機械器具」、「その他の小売」がそれぞれ県下都市部で第一位の販売額となっています。その理由としては、備北地域では市域を跨ぐ日常的な移動が相対的に少なく、購買客の市内での消費が多く、同時に隣接市等からは流入していることも推定されます。



(2) 財政の状況

最近 10 ヶ年の本市の歳入の推移は、採取総額は概ね 400 億円前後で推移しています。令和 2 年度に 461 億円と最大となっていますが、これは新型コロナ対策に係る国の支出金が例年に比べて大きく増加した影響となっています。一般財源についてはほぼ横ばいで推移しています。

歳出の推移は、令和に入ってから義務的経費が徐々に増加する傾向にあります。またその他の経費が令和 2 (2020) 年に急増していますが、これは新型コロナ対策として支出された補助金が増加したことが影響しており、歳入の国支出金と対となっています。投資的経費については平成 25(2013)年、平成 26(2014)年に 100 億円前後と例年に比べて 50 億円ほど増加しましたが、その他の年度は概ね 50 ～70 億円の幅の中で推移しています。なお、令和 2 (2020)年度の投資的経費の増加については、学校 I C T 事業、自治活動拠点施設整備事業などを実施したことの影響によるものです。

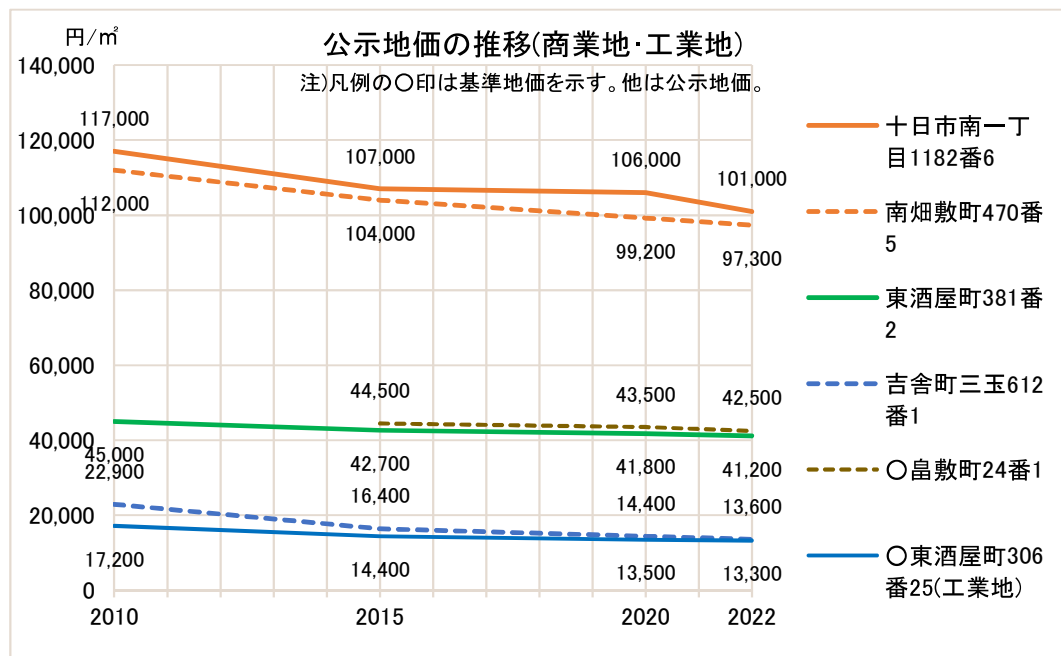
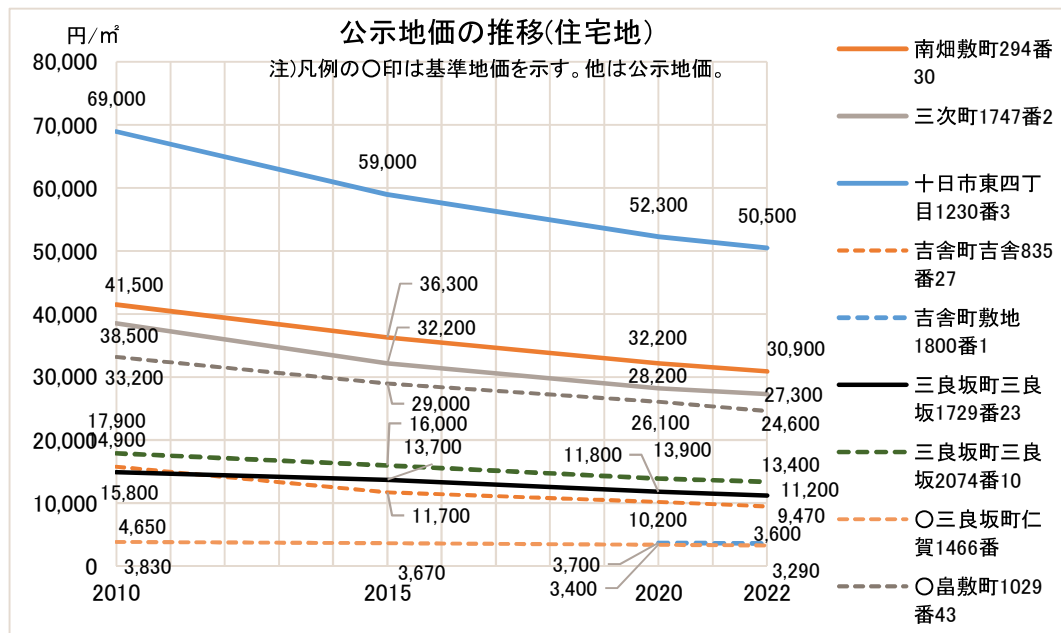


(3) 地価の状況

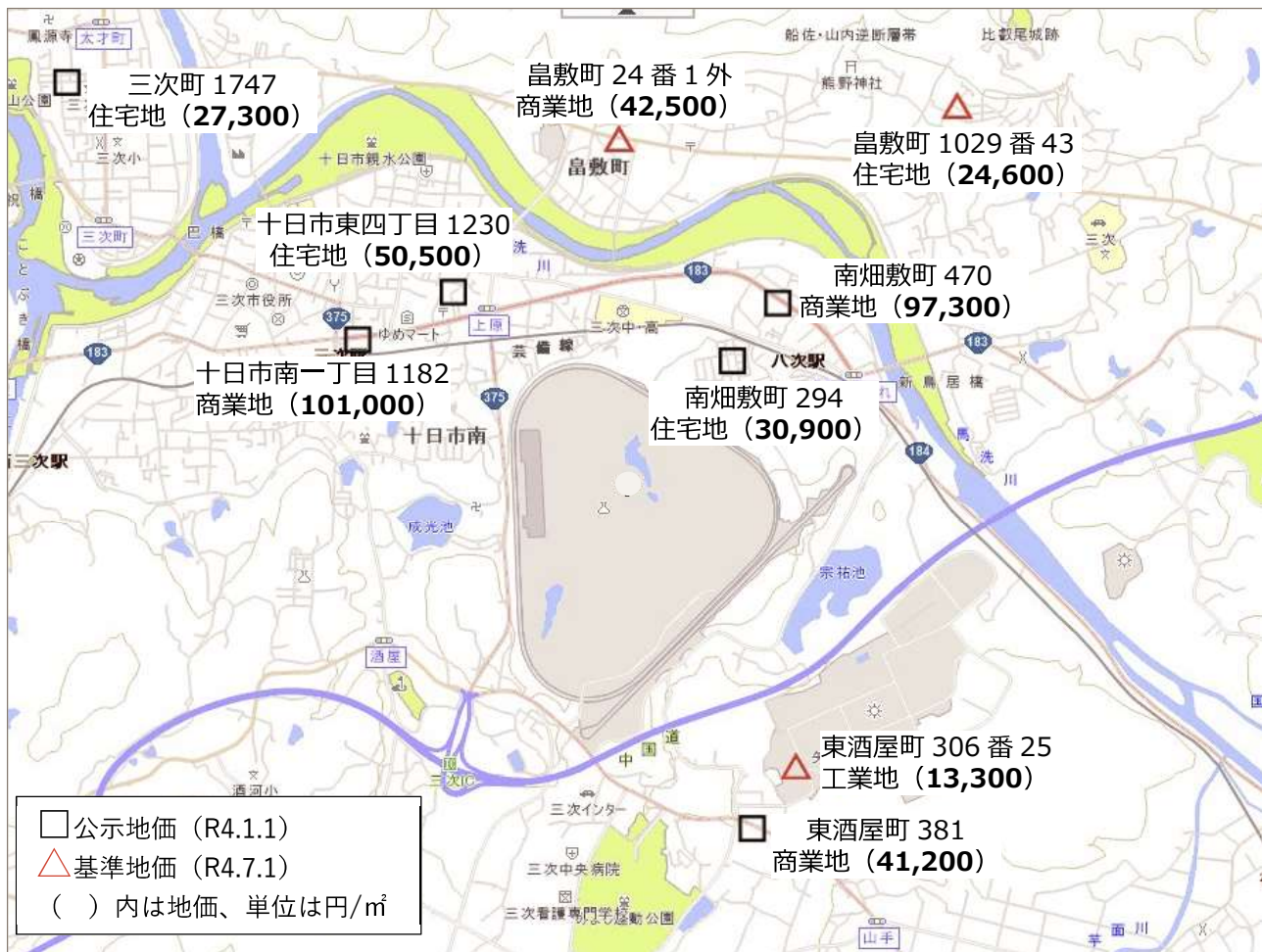
令和4(2022)年における本市の最高地価は、十日市南一丁目の 101,000 円/㎡、次いで南畑敷町の 97,300 円/㎡とともに商業地となっています。また、住宅地では十日市南一丁目が 50,500 円/㎡で最も高く、続いて南畑敷町の 30,900 円/㎡、三次町 27,300 円/㎡、畠敷町 24,600 円/㎡と続いています。

平成22(2010)年からの推移を見ると、どの地点もほぼ減少傾向が続いていますが、特に住宅地の減少幅が大きくなる傾向にあります。

※「住宅地」、「商業地」、「工業地」の区分については、地価調査の中で用いられた区分で、必ずしも都市計画用途地域を反映していない。



(旧三次市街地)



(三良坂町)



(吉舎町)

